

# 山王古墳群

—第 1・2 次発掘調査—

令和 5 (2023) 年 3 月  
久留米市教育委員会

# 山王古墳群

—第 1・2 次発掘調査—

令和 5（2023）年 3 月  
久留米市教育委員会

## 序

久留米市は古くから水路と陸路の要衝としての位置を占め、筑後地方における政治・経済・文化などの面で発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。

今回の調査は、久留米市の東部に位置する田主丸町石垣で実施しました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

また、今回の発掘調査に際して、福岡県久留米県土整備事務所や近隣住民の皆様にご多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和5年3月31日

久留米市教育委員会

教育長 井上 謙介

## 例 言

1. 本書は、令和2・3年度に福岡県久留米県土整備事務所の委託を受けて石垣川砂防ダム建設に先立ち実施した、山王古墳群第1・2次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、久留米市教育委員会が調査主体となり、久留米市市民文化部文化財保護課の小川原励が担当した。
3. 本調査の略記号と調査番号、調査期間は以下のとおりである。

| 発掘調査名      | 略記号     | 調査番号   | 調査期間                  |
|------------|---------|--------|-----------------------|
| 山王古墳群第1次調査 | SNV-001 | 202006 | 2020.06.01～2021.02.04 |
| 山王古墳群第2次調査 | SNV-002 | 202108 | 2021.04.15～2022.02.15 |

4. 本書に掲載した遺構実測図は、主に水糸メッシュ法で作成し、一部トータルステーションや写真測量を用いて作成した。図面の作成は調査担当者他、文化財保護課職員江島伸彦・神保公久・江頭俊介、発掘作業員の飛野博文が行った。
5. 空中写真を除く遺構・遺物写真はCanon EOS 5D Mark IV デジタルカメラ、リコー PENTAX K-1 II デジタルカメラで小川原が撮影した。  
空中写真は有限会社空中写真企画に委託しドローンで撮影した。
6. 図面の方は全て座標北を示す。また基準点の座標値は国土調査法第II座標系を基に作成し、世界測地系（新座標系）を用いた。なお、座標は熊本地震に伴うパラメータ補正を実施していない。
7. 本調査に関わる遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
8. 本書の執筆・編集は小川原が行った。

## 本文目次

|            |    |
|------------|----|
| I. はじめに    | 1  |
| II. 位置と環境  | 5  |
| III. 第1次調査 | 8  |
| IV. 第2次調査  | 24 |
| V. 総括      | 41 |

## 挿図目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/50,000) | 6  |
| 第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)  | 6  |
| 第3図 調査地周辺の地形測量図 (1/300)      | 折込 |
| 第4図 1号墳石室実測図 (1/50)          | 折込 |
| 第5図 1号墳石列実測図 (1/80)          | 折込 |
| 第6図 1号墳北部土層実測図 (1/30)        | 折込 |
| 第7図 1号墳東部土層実測図 (1/30)        | 折込 |
| 第8図 1号墳北西部土層実測図 (1/30)       | 折込 |
| 第9図 1号墳掘削後地形測量図 (1/100)      | 10 |
| 第10図 1号墳南部土層実測図 (1/30)       | 11 |
| 第11図 1号墳南西部土層実測図 (1/30)      | 12 |
| 第12図 1号墳東部視乱土層実測図 (1/30)     | 12 |
| 第13図 1号墳前底部土層実測図 (1/40)      | 13 |
| 第14図 1号墳突出部土層実測図 (1/30)      | 14 |
| 第15図 3号墳実測図 (1/40)           | 16 |
| 第16図 第1次調査出土遺物実測図① (1/4)     | 18 |
| 第17図 第1次調査出土遺物実測図② (1/4)     | 19 |
| 第18図 第1次調査出土遺物実測図③ (1/4)     | 20 |
| 第19図 第1次調査出土遺物実測図④ (1/4、1/1) | 21 |
| 第20図 2号墳石室実測図 (1/60)         | 折込 |
| 第21図 2号墳石室画像 (1/120)         | 折込 |
| 第22図 2号墳石列実測図 (1/80)         | 折込 |
| 第23図 2号墳石列画像 (1/150)         | 折込 |
| 第24図 2号墳南北土層実測図 (1/40)       | 折込 |
| 第25図 2号墳東西土層実測図 (1/40)       | 折込 |
| 第26図 2号墳掘削後地形測量図 (1/120)     | 25 |
| 第27図 2号墳前庭土層実測図 (1/40)       | 26 |
| 第28図 2号墳閉塞石実測図 (1/40)        | 26 |
| 第29図 2号墳突出部土層実測図 (1/30)      | 27 |
| 第30図 2号墳羨門北側土層実測図 (1/30)     | 27 |
| 第31図 2号墳遺物出土状況実測図 (1/30)     | 28 |

|      |                                   |    |
|------|-----------------------------------|----|
| 第32図 | 2号墳石室外面画像 (1/150) . . . . .       | 29 |
| 第33図 | 2号墳積土内部列石画像 (1/50) . . . . .      | 30 |
| 第34図 | 2号墳突出内部石列実測図 (1/40) . . . . .     | 31 |
| 第35図 | 第2次調査出土遺物実測図① (1/4) . . . . .     | 33 |
| 第36図 | 第2次調査出土遺物実測図② (1/4) . . . . .     | 34 |
| 第37図 | 第2次調査出土遺物実測図③ (1/4) . . . . .     | 35 |
| 第38図 | 第2次調査出土遺物実測図④ (1/4) . . . . .     | 36 |
| 第39図 | 第2次調査出土遺物実測図⑤ (1/4、1/2) . . . . . | 37 |
| 第40図 | 第2次調査出土遺物実測図⑥ (1/2、1/1) . . . . . | 38 |

## 表 目 次

|     |                         |    |
|-----|-------------------------|----|
| 第1表 | 第1次調査出土遺物観察表① . . . . . | 22 |
| 第2表 | 第1次調査出土遺物観察表② . . . . . | 23 |
| 第3表 | 第2次調査出土遺物観察表① . . . . . | 39 |
| 第4表 | 第2次調査出土遺物観察表② . . . . . | 40 |

## 図 版 目 次

|      |                               |                               |
|------|-------------------------------|-------------------------------|
| 図版 1 | (1) 山王古墳群第1次調査地全景<br>(南上空から)  | (8) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況③<br>(西から) |
|      | (2) 山王古墳群1号墳全景 (南上空から)        | 図版 4                          |
| 図版 2 | (1) 1号墳掘削前状況 (西から)            | (1) 1号墳東攪乱土層堆積状況 (北から)        |
|      | (2) 1号墳掘削前状況 (北から)            | (2) 1号墳突出部西部土層堆積状況 (南から)      |
|      | (3) 1号墳掘削前墳頂付近 (西から)          | (3) 1号墳突出部東部土層堆積状況 (南から)      |
|      | (4) 1号墳試掘時確認石列状況 (北から)        | (4) 1号墳突出部南北土層堆積状況 (南から)      |
|      | (5) 1号墳前庭土層堆積状況 (北から)         | (5) 1号墳前庭南土層堆積状況 (西から)        |
|      | (6) 1号墳北部土層堆積状況① (東から)        | (6) 道路露頭自然堆積状況 (北から)          |
|      | (7) 1号墳北部土層堆積状況② (東から)        | (7) 1号墳前庭遺物出土状況 (南西から)        |
|      | (8) 1号墳北部土層堆積状況③ (東から)        | (8) 1号墳石室検出状況 (南から)           |
| 図版 3 | (1) 1号墳南部土層堆積状況① (東から)        | 図版 5                          |
|      | (2) 1号墳東トレンチ掘削状況 (東から)        | (1) 1号墳前室敷石検出状況 (西から)         |
|      | (3) 1号墳東トレンチ土層堆積状況①<br>(北から)  | (2) 1号墳前室北側壁 (南西から)           |
|      | (4) 1号墳東トレンチ土層堆積状況②<br>(北から)  | (3) 1号墳前室北側壁加工痕 (南から)         |
|      | (5) 1号墳東トレンチ土層堆積状況③<br>(北から)  | (4) 1号墳閉塞石検出状況① (西から)         |
|      | (6) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況①<br>(西から) | (5) 1号墳閉塞石検出状況② (東から)         |
|      | (7) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況②<br>(西から) | (6) 1号墳前庭礎集中部 (西から)           |
|      |                               | (7) 1号墳全景 (西から)               |
|      |                               | (8) 1号墳突出部検出状況 (西から)          |
|      |                               | 図版 6                          |
|      |                               | (1) 1号墳北西部列石検出状況① (北西から)      |
|      |                               | (2) 1号墳北西部列石検出状況② (北から)       |
|      |                               | (3) 1号墳北中央部列石検出状況 (北から)       |
|      |                               | (4) 1号墳北東部列石検出状況① (北から)       |
|      |                               | (5) 1号墳北東部列石検出状況② (北から)       |

- (6) 1号墳北東部列石検出状況③(北東から)
- (7) 1号墳南東部列石検出状況①(東から)
- (8) 1号墳南東部列石検出状況②(南東から)
- 図版7 (1) 1号墳南部列石検出状況(南から)
- (2) 1号墳北西部積土内部列石検出状況(北から)
- (3) 1号墳南部積土内部列石検出状況(東から)
- (4) 1号墳北部石材崩落状況(西から)
- (5) 3号墳検出状況(北から)
- (6) 3号墳敷石検出状況(南から)
- (7) 3号墳完掘状況(南から)
- (8) 現地説明会風景(東から)
- 図版8 第1次調査出土遺物写真①
- 図版9 第1次調査出土遺物写真②
- 図版10 第1次調査出土遺物写真③
- 図版11 第1次調査出土遺物写真④
- 図版12 (1) 山王古墳群第1・2次調査地全景(東上空から)
- (2) 2号墳全景①(北上空から)
- 図版13 (1) 2号墳全景②(西から)
- (2) 2号墳全景③(北から)
- 図版14 (1) 石垣川周辺の加工痕ある花崗岩(南から)
- (2) 2号墳調査前状況①(西から)
- (3) 2号墳調査前状況②(東から)
- (4) 2号墳前にある祠①(東から)
- (5) 2号墳前にある祠②(南から)
- (6) 2号墳北部土層堆積状況①(西から)
- (7) 2号墳北部土層堆積状況②(西から)
- (8) 2号墳北部土層堆積状況③(西から)
- 図版15 (1) 2号墳北部土層堆積状況④(西から)
- (2) 2号墳東部土層堆積状況①(南から)
- (3) 2号墳東部土層堆積状況②(南から)
- (4) 2号墳東部土層堆積状況③(南から)
- (5) 2号墳南部土層堆積状況①(西から)
- (6) 2号墳南部土層堆積状況②(西から)
- (7) 2号墳南部土層堆積状況③(西から)
- (8) 2号墳西部土層堆積状況(南から)
- 図版16 (1) 2号墳前庭土層堆積状況(東から)
- (2) 2号墳玄室奥壁上部(西から)
- (3) 2号墳玄室奥壁(西から)
- (4) 2号墳玄室天井(西下から)
- (5) 2号墳玄室南側壁(北から)
- (6) 2号墳玄室北側壁(南から)
- (7) 2号墳玄室から前室をのぞむ(東から)
- 図版17 (1) 2号墳前室上部(東から)
- (2) 2号墳前室敷石検出状況(東から)
- (3) 2号墳羨道から前室をのぞむ(西から)
- (4) 2号墳羨道敷石検出状況(西から)
- (5) 2号墳羨道検出状況①(西から)
- (6) 2号墳閉塞石検出状況②(東上から)
- (7) 2号墳閉塞石検出状況③(東から)
- (8) 2号墳前室鉄鏝出土状況(北東から)
- 図版18 (1) 2号墳前庭遺物出土状況①(西から)
- (2) 2号墳前庭遺物出土状況②(西から)
- (3) 2号墳前庭遺物出土状況③(西から)
- (4) 2号墳前庭遺物出土状況④(西から)
- (5) 2号墳石列検出状況①(北西から)
- (6) 2号墳石列検出状況②(北から)
- (7) 2号墳石列検出状況③(東から)
- (8) 2号墳石列検出状況④(南東から)
- 図版19 (1) 2号墳石列検出状況⑤(南から)
- (2) 2号墳開口部(南西から)
- (3) 2号墳石室外部検出状況①(西から)
- (4) 2号墳石室外部検出状況②(北から)
- (5) 2号墳石室外部検出状況③(南から)
- (6) 2号墳石室外部検出状況④(南西から)
- (7) 2号墳石室掘方掘削状況(南から)
- (8) 2号墳玄室床面土層堆積状況①(北から)
- 図版20 (1) 2号墳玄室床面土層堆積状況②(西から)
- (2) 2号墳前室床面土層堆積状況①(西から)
- (3) 2号墳前室床面土層堆積状況②(南から)
- (4) 2号墳羨道床面土層堆積状況(南から)
- (5) 2号墳前庭床面土層堆積状況(南から)
- (6) 2号墳北西部鏝検出状況(西から)
- (7) 道路露頭検出土坑状土層堆積状況(北東から)
- (8) 2号墳北部遺物出土状況(西から)
- 図版21 第2次調査出土遺物写真①
- 図版22 第2次調査出土遺物写真②

図版23 第2次調査出土遺物写真③

図版24 第2次調査出土遺物写真④

図版25 第2次調査出土遺物写真⑤

図版26 (1) 益生田古墳群 76 号墳 (西から)

(2) 鳥越古墳群 1 号墳 (西から)

## I. はじめに

### 1. 調査に至る経過

本書は、石垣川砂防事業に伴う事前の発掘調査の報告書である。平成 29 年 9 月 28 日、久留米市田主丸町石垣 1314-13 周辺の石垣川にかかる大規模な砂防ダムを新設するにあたり、福岡県久留米県土整備事務所河川砂防課砂防係（以下砂防係）より周辺に古墳がある旨の相談を受けたことに端を発する。相談を受けた古墳の他にも周辺に古墳が存在する可能性があったため、10 月 5 日に砂防ダム建設地周辺の現地踏査を実施した。踏査の結果、確実に古墳と判断できる古墳が 1 基と、古墳である可能性がある窪地を 2 カ所確認した。踏査結果を踏まえて砂防係と協議し、開発により遺跡が破壊される可能性を再確認した。その結果を受け、10 月 11 日に砂防係から「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。

踏査の結果、確認された窪地が古墳であるか確認するために、令和 2 年 3 月 9 日から 17 日にかけて、目視では古墳かどうか確認できない 2 カ所で手掘りによる試掘調査を実施した。試掘調査の結果、1 カ所は積土や積石の痕跡は確認出来ず、人工的な窪みではなく樹木の抜け跡であることが解った。もう 1 カ所は掘削の結果、窪地に沿って 2 段程度の石積みが確認されたため、古墳であると判断した。砂防ダム建設に先立つ作業用道路拡幅に伴い古墳の保存が困難なため、2 基の古墳の発掘調査が必要である旨を回答した。

令和 2 年 5 月 15 日に福岡県久留米県土整備事務所から「発掘調査の依頼」が提出されたのを受け、協議の結果、調査費用を原因者負担として発掘調査を 2 年かけて実施することとなった。5 月 20 日に福岡県久留米県土整備事務所と久留米市長大久保勉は「石垣川砂防事業における埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結した。さらに 5 月 29 日に「山王古墳群第 1 次発掘調査業務委託」を取り交わした。第 1 次調査は令和 2 年 6 月 1 日から開始し、令和 3 年 2 月 4 日に調査を終了した。調査を実施する上で、掘削や測量の妨げになる樹木の伐採が必要であったため、協議の上、久留米市が実施した。調査を進めると想定していた以上に古墳の残存状況が良好で、古墳が複雑な構造をしていた。そのため、掘削範囲の拡大や土量の増加による人件費の増加、また図面作成、整理作業等に時間を要した。協議の上、3 月 15 日に「石垣川砂防事業における埋蔵文化財発掘調査に関する変更協定書」を再度締結し、全体の調査費用の増額、整理期間の延長を取り決め、3 月 17 日に変更契約を行った。

令和 3 年度に入ると、令和 3 年 4 月 15 日に「山王古墳群第 2 次発掘調査業務委託」を取り交わし、令和 3 年 4 月 15 日から第 2 次調査を開始した。樹木の伐採は、協議の上、福岡県久留米県土整備事務所が実施した。令和 5 年 2 月 15 日に現地調査を終了し、3 月 30 日に変更契約を行った。

令和 4 年 4 月 20 日に「山王古墳群第 1・2 次調査報告書作成業務委託」を取り交わし、整理作業・報告書作成を行った。作業は西町文化財整理事務所と久留米市埋蔵文化財センターで実施し、令和 5 年 3 月 31 日に本報告書を刊行した。

## 2. 調査の体制

平成 29 年度（照会、踏査）

調査委託：福岡県久留米県土整備事務所

所 長：村田 泰英

副所長：荒殿 宏

河川砂防課

課 長：中森 健一

砂防係長：平田 明彦

技術主任：室岡 邦仁

調査主体：久留米市教育委員会

教育長：大津 秀明

調査総括：久留米市

市民文化部

部 長：野田 秀樹

文化芸術担当部長：甲斐田 忠之

次 長：西村 信二

文化財保護課

課 長：馬場 博文

課長補佐：山崎 万里子

課長補佐兼主査：白木 守

主 査：水原 道範

事務主査（事前確認担当兼務）：塚本 映子

庶務担当：豊福 早苗

事前確認担当：神保 公久、大隈 彩未

令和 2 年度（協定書締結、第 1 次調査）

調査委託：福岡県久留米県土整備事務所

所 長：荒殿 宏

副所長：山口 甲秀

河川砂防課

課 長：山口 甲秀

砂防係長：大坪 学博

技術主任：富田 光宏

調査主体：久留米市教育委員会

教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市

市民文化部

部 長：竹村 政高

次 長：西村 信二

文化財保護課

課 長：水島 秀雄

課長補佐：久保田 由美

課長補佐兼主査：白木 守、丸林 禎彦

主 査：水原 道範

事務主査：小澤 太郎

庶務担当：市村 久美子、箔谷 綾

調査担当：小川原 励

整理担当：今村 理恵、宮崎 彩香

令和3年度（第2次調査）

調査委託：福岡県久留米県土整備事務所

所長：大隈 徹浩

副所長：山田 光春

河川砂防課

課長：田口 修治

砂防係長：大坪 学博

技術主任：原田 利幸

調査主体：久留米市教育委員会

教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市

市民文化部

部長：竹村 政高

次長：深堀 尚子

文化財保護課

課長：水島 秀雄

課長補佐：久保田 由美

課長補佐兼主査：白木 守、丸林 禎彦

主査：水原 道範

事務主査：小澤 太郎、江島 伸彦

庶務担当：市村 久美子、箔谷 綾

調査担当：小川原 励

整理担当：今村 理恵、宮崎 彩香

令和4年度（整理作業・報告書作成）

調査委託：福岡県久留米県土整備事務所

所長：喜多島 礼和

副所長：山田 光春

河川砂防課

課長：田口 修治

砂防係長：櫻井 利和

技術主任：江口 稜人

調査主体：久留米市教育委員会

教育長：井上 謙介

調査総括：久留米市

市民文化部

部長：竹村 政高

次長：深堀 尚子

文化財保護課

課長：水島 秀雄

課長補佐：田中 健二

課長補佐兼主査：白木 守、丸林 禎彦

主査：小澤 太郎

事務主査：江島 伸彦

庶務担当：市村 久美子

本田 岳秋 辻 貴子

整理・報告書作成担当：小川原 励

整理担当：今村 理恵、宮崎 彩香

発掘作業員

令和2年度

池尻 忠行・井上 知義・江藤 光男・大熊 澄子・大塚 ヒロ子・佐田 農夫男  
高尾 春代・田中 樹子・原 学・日吉 政勝・平川 真保・平田 広之・藤木 幸子  
舟越 朝菜・丸山 幸・宮原 眞助

令和3年度

井上 知義・江藤 光男・大熊 澄子・大塚 ヒロ子・佐田 農夫男・佐藤 陽一  
高浪 雄一郎・竹森 聡子・飛野 博文・日吉 政勝・平川 真保・堀江 俊文・吉岡 佳奈

出土品整理作業員

令和2年度

山元 博子

令和3年度

野口 晴香

令和4年度

井上 千恵美・江口 里織・野口 晴香・湯川 琴美・山口 久美子

発掘調査中、本報告を刊行するにあたって多くの方にご助言、ご支援いただいた。明記して深謝いたします。

大庭 孝夫・坂本 真一・重藤 輝行・下山 正一・辻田 淳一郎・飛野 博文（敬称略、順不同）

## II. 位置と環境

久留米市田主丸町は、筑後川の中流域、筑紫平野の東部に位置し、断層山脈である耳納連山の急峻な山容と、平野部の穏やかな景観が特徴的な対比を見せる。山王古墳群は耳納連山で最も標高の高い鷹取山から北西部に派生した支尾根の頂上付近に4基と西斜面に3基、標高130～200mに立地する。支尾根北端には金刀比羅（琴平）神社があり、参道が西斜面に整備されている。支尾根西側の谷には石垣川が、東側の谷には川原川が流れる。石垣川は、河食により川の周囲が深く、広く削られ、幅5～8m程度、水面から川岸までの比高が2～10m程度となっている。東側は大規模な崖崩れにより、断崖となっている。頂上付近の4基は金刀比羅神社の周辺の斜面地に位置している。今回発掘調査を実施した山王古墳群1・2・3号墳は、金刀比羅神社参道沿いの傾斜がわずかに緩やかになる標高130～150m地点に築造している。西側約10mを石垣川は流れる。樹木がなければ、筑紫平野の東部、北方の古処・馬見山系を遠望することができる。

周辺の遺跡で縄文時代から弥生時代の遺構は希薄であるが、土器・石器等の散布は認められる。益生田古墳群では縄文土器、今回の調査では縄文土器と弥生土器が出土しており、小川沿いの緩斜面地にキャンプサイトがあった可能性がある。

古墳時代の集落跡は、田主丸町での発掘調査が圃場整備を中心に実施された経緯もあり、平野部に多く確認されている。豊城中ツプロ遺跡は弥生時代前期、古墳時代後期の建物跡が確認され、弥生時代の建物跡からはメノウ製の石器が多量に出土している。二田遺跡は未調査ながら須恵器片が大量に表面採集される地点で、集落が存在していた可能性は高い。

耳納山麓は後期群集墳の密集地帯として知られる。現在までに確認された古墳は消滅したものも含め、350基を超え、18世紀半ばに記された『寛延記』によると竹野郡には1,053基の古墳が存在したとされており、山麓一帯が墓域として利用されていたことがうかがえる。

ここでは周辺に所在する古墳、古墳群について述べる。

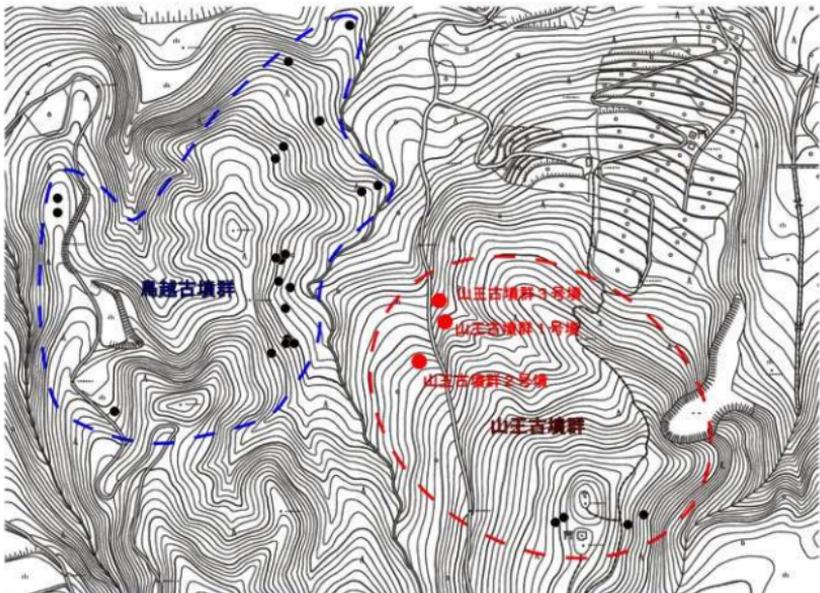
**森部平原古墳群** 田主丸大塚古墳の上段の標高200m前後に立地し、70基が確認されている。径10m前後の小規模な円墳を主体とし、石室形態は単室・複室ともに存在するが、構造的には胴張りが多く、平面プランは円形に近い。側壁は持ち送りながら積み上げ、天井石は小振りなものを用いる。奥壁も中型から大きめの石材を用いる。

**清長橋古墳群** 森部平原古墳群の北側に標高100m前後に立地する。同一の谷筋上に位置し、76基が確認されている。内容、構造的には森部平原古墳群に類似するが、平成15年度に調査した27・28号墳は持ち送りではなく、垂直に上がる側壁が特徴である。出土遺物から6世紀前半から中頃に築造されたものと考えられる。この他の古墳もやや規模の大きな古墳が目立つ。

**大塚古墳群** 田主丸大塚古墳を含む9基が確認されている。田主丸大塚古墳は3号墳である。5号墳は墳丘、石室がほとんど残っていないが、横穴式石室構造の前方後円墳であったと伝わる。周辺からは埴輪片が採集されており、川西編年V期に比定される。6号墳は径30m程度の円墳であ



第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/50,000)



第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)

るが主体部は崩壊している。8号墳は現在消滅しているが、奥壁の一部と考えられる石材が、市指定有形文化財として保管されている。9号墳については袖石と側壁の一部が残っている。

**鳥越古墳群** 21基の古墳が確認されているが、詳細な分布調査は実施していない。石垣川の西方尾根の上に立地する。ほぼ完形の古墳もいくつか確認できる。小さな谷を挟み東西に2グループに分布が分かれる。西側のグループは尾根の西斜面、東側のグループは尾根の東斜面に主に立地している。東側のグループには急斜面下に築造された古墳が複数みられる。

**益生田古墳群** 田主丸町益生田の中央部山麓から中腹に所在する。A～Dの4つの支群で構成されている。A・B・C群は径10～20mの円墳があり、比較的大型な古墳もみられる。石室構造は単室・複室ともに存在する。12号墳は奥壁の一部に敲打によって、円文、格子文、人物が描かれている。平成26・27年度に発掘調査を実施した83・85・87・88号墳は、天武7年(678)の筑紫大地震によって北側に傾き、崩落した可能性がある。

**寺徳古墳** 径18m程の古墳で石室内ほぼ全面に装飾を持つ。装飾は赤、緑の顔料を用いて同心円文・三角文・盾を描いている。段築を有し1段目と2段目に石組みを持つ。平成10年度に実施した範囲確認のトレンチ内から、弥生時代後期の甕棺墓や小型仿製鏡の鋳型が確認されている。

**麦生古墳群** 17基の古墳が確認されており、山麓に立地する。5号墳の西館古墳は短軸14m、長軸17mの東西に長い楕円形を呈す。石室は複室構造で、奥壁及び玄門右袖石に装飾を施す。装飾は赤、緑色を用いており、同心円文、三角文、人物、船等を描く。墳丘には石列を有する。

**中原塚古墳** 複室構造の横穴式石室で、玄室、全室のほぼ全面に装飾が描かれる。墳丘盛土を失い石室の石材が露出した状況ではあるが、内部の装飾は比較的残りがよい。赤、青、緑色を用いて同心円文を主体とした文様構成である。その他にも靫、短甲等も描かれる。また、平成15年度の発掘調査で朝鮮半島系の三累環頭太刀柄頭が出土している。

**善院古墳群** 田主丸町地徳の善院集落内に位置し、8基現存する。墳丘がなくなっているものもあるため、墳丘規模については推測になるが、石室構造が複室もので規模も大きく、墳丘径も20m近くあると考えられる。特に4号墳は30m前後の墳丘径があり、主体部の玄室も大きく、全室は小型のものである。この他、7・8号墳は巨石を用いた主体部をもつ。

**飛塚古墳** 田主丸町竹野に所在する全長40m程度の前方後円墳の可能性のある古墳。部屋状の空間や板石状の巨石が目撃されていることから古墳と想定されていた。北側斜面には円筒埴輪が散布しており、6世紀前半から中頃に位置づけられる。

**隈3号墳** 田主丸町中尾にある隈集落内に所在する。墳丘盛土はほとんど失われており、天井石が露出している。奥壁に船、同心円文等の装飾を赤色の顔料で描くが、退色が著しい。

中世になると周辺の山地頂上付近もしくは尾根上に、多くの山城が築かれる。これらの山城は、南北朝の動乱期に南朝方と北朝方の争いの最前線としての役割を果たし、眼下の両筑平野では多くの合戦が行われた。山王古墳が位置する尾根上には石垣城前城跡が立地する。

### Ⅲ. 第1次調査

#### 1. 調査の目的と経過

本調査は山王古墳群1号墳の一部が作業用道路建設の際に破壊されるため、1号墳の規格や規模、時期を明らかにするために調査を実施した。

令和2年6月1日に機材を搬入し、調査を開始した。当初、草木が生い茂っていたため、伐採と地形測量を並行して行った。地形測量を7月3日に終了した後、7月8日から掘削を開始した。掘削するにあたり、樹木の伐採が必要となり、久留米県土整備事務所が8月18日に樹木の伐採を行った。掘削と並行して石室や石組み、遺物集中部の実測図の作成や写真撮影を行った。室内部や石列が露出したタイミングで、11月28日に現地説明会を実施し、42名の参加者が見学した。12月16日にドローンで全体写真を撮影し、開発によって削平される突出部に追加でトレンチを設定し、掘削、図面作成を行った。1月29日に1号墳の東端を確認するため、東部に重機でトレンチを設定し、土層断面図作成、写真撮影を行った。2月1日に埋め戻しを行い、2月4日に機材を撤収し、現地調査を終了した。

地形測量は、平板を用い作成し、個別遺構・土層実測図は水系メッシュ法で記録したが、それ以外の遺構実測はトータルステーションを用い、株式会社CUBIC社製ソフト「遺構くんcubic」でデータを編集・保管している。遺構写真は、空中写真を（有）空中写真企画がCanon EOS 5D Mark IIで撮影し、その他をCanon EOS 5D Mark IV デジタルカメラで撮影した。

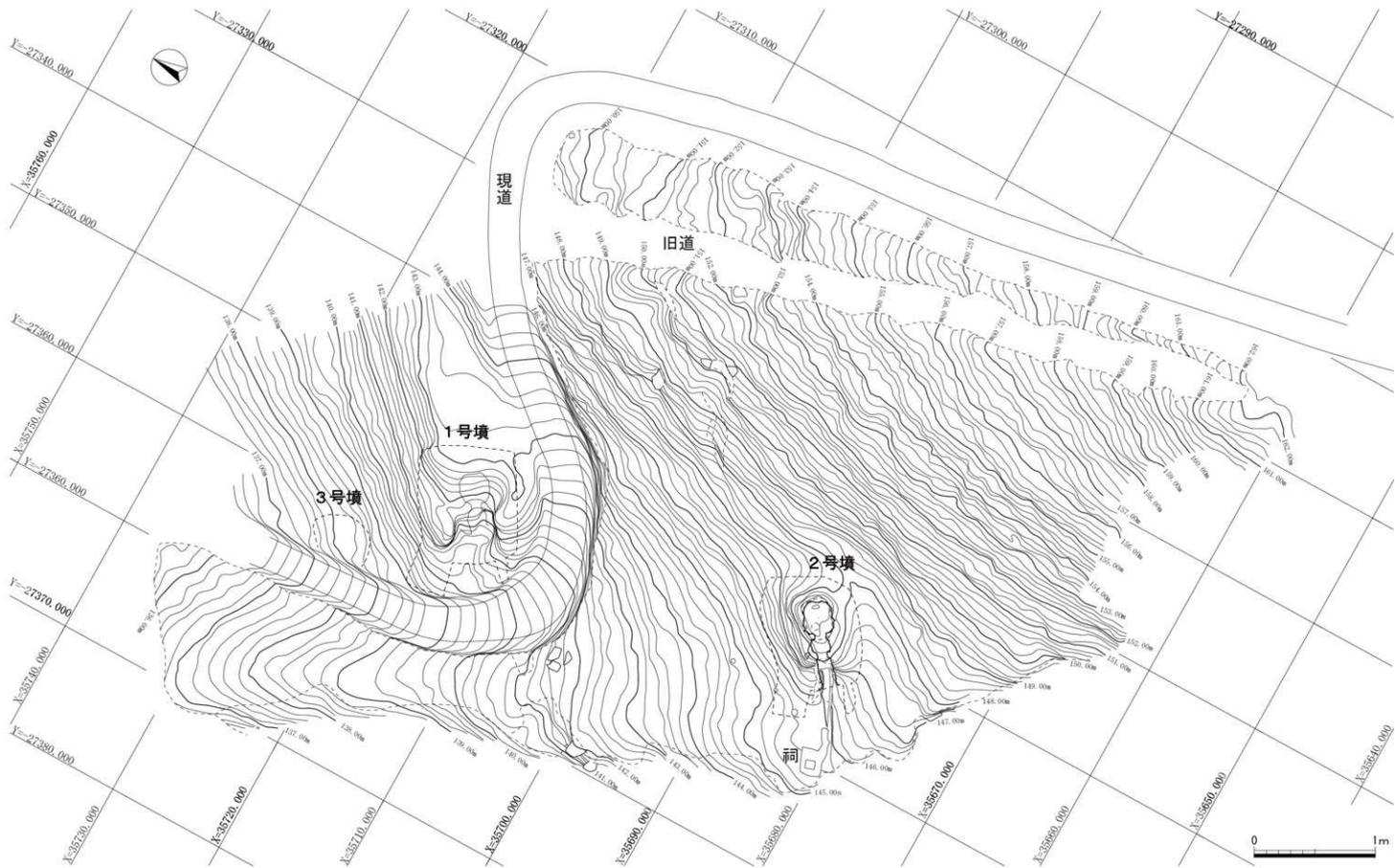
#### 2. 遺構の概要

調査地は標高141mの耳納連山南斜面に位置し、西側7mに谷があり、谷底には石垣川が流れる。試掘調査によって石列が確認された古墳を1号墳とし、調査対象とした。1号墳の掘削を進めると、試掘調査時に確認された石組みは、古墳時代に築造されたものではなく、後世の盗掘、または石取り時に組まれていた可能性が高く、古墳に伴うものではないことが分かった。しかし、その石組みの下や道路の壁面付近で閉塞石や前庭部、突出部の石組みが確認され、古墳であることが再確認された。また、1号墳の範囲を確認する過程で6m北側に小石室が確認されたため、これを3号墳とした。

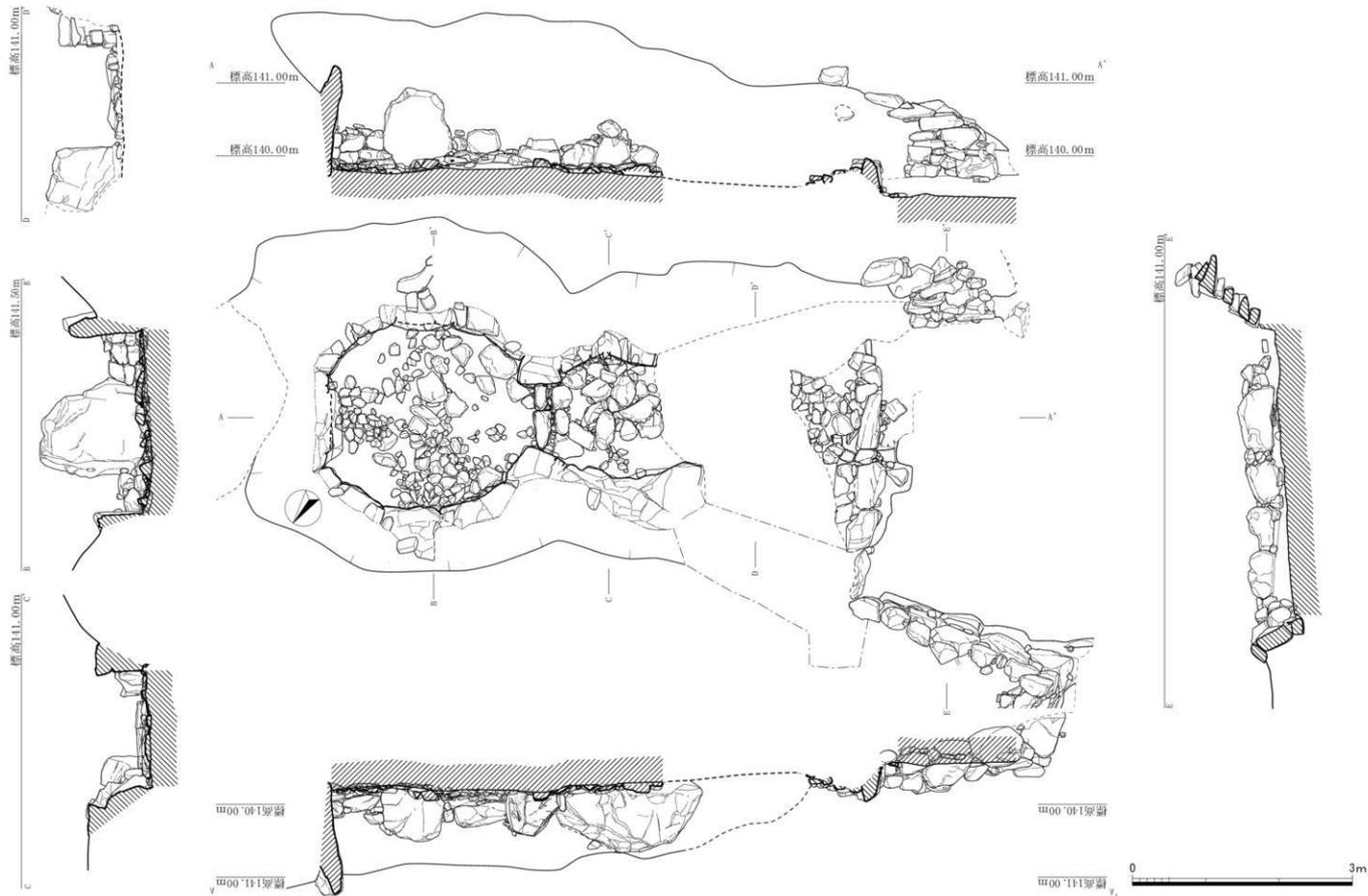
##### 1号墳（図版1～7）

##### 墳丘（第6～13図）

1号墳は北から南へ上る旧道路が東へ曲がる地点の内側にあり、旧道路は古墳を避けるように古墳の周囲を地形に沿って通されている。石室上部の石は抜き取られ、調査前は墳丘の中央が窪地になっていた。石室内部に崩れ落ちた埋土を掘削する際、埋土の中からは石室の石材と考えられる石はあまり確認できなかった。また、傾斜地に立地しているため、古墳の周囲にも多量の土が堆積していた。

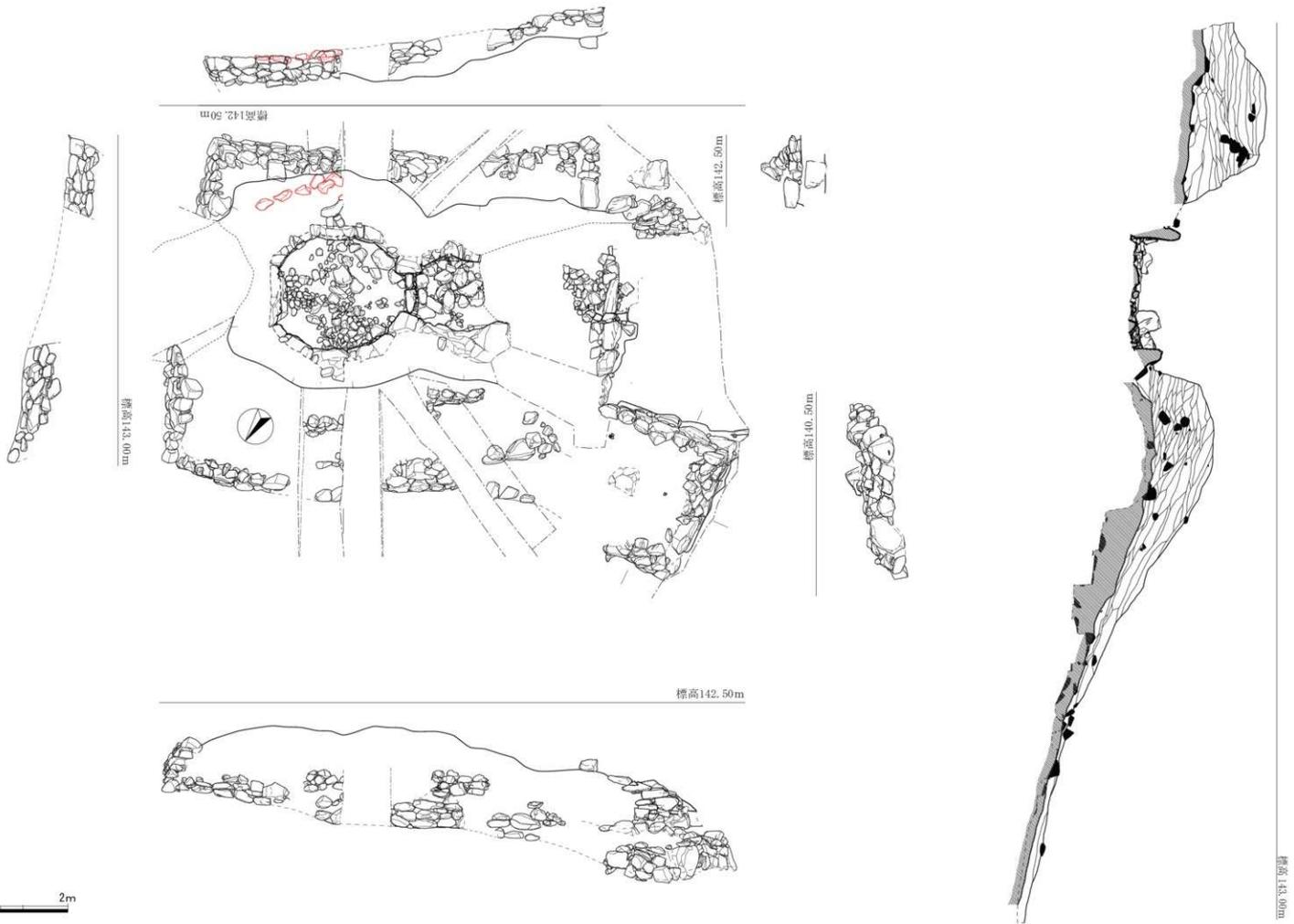


第3図 調査地周辺の地形測量図 (1/300)

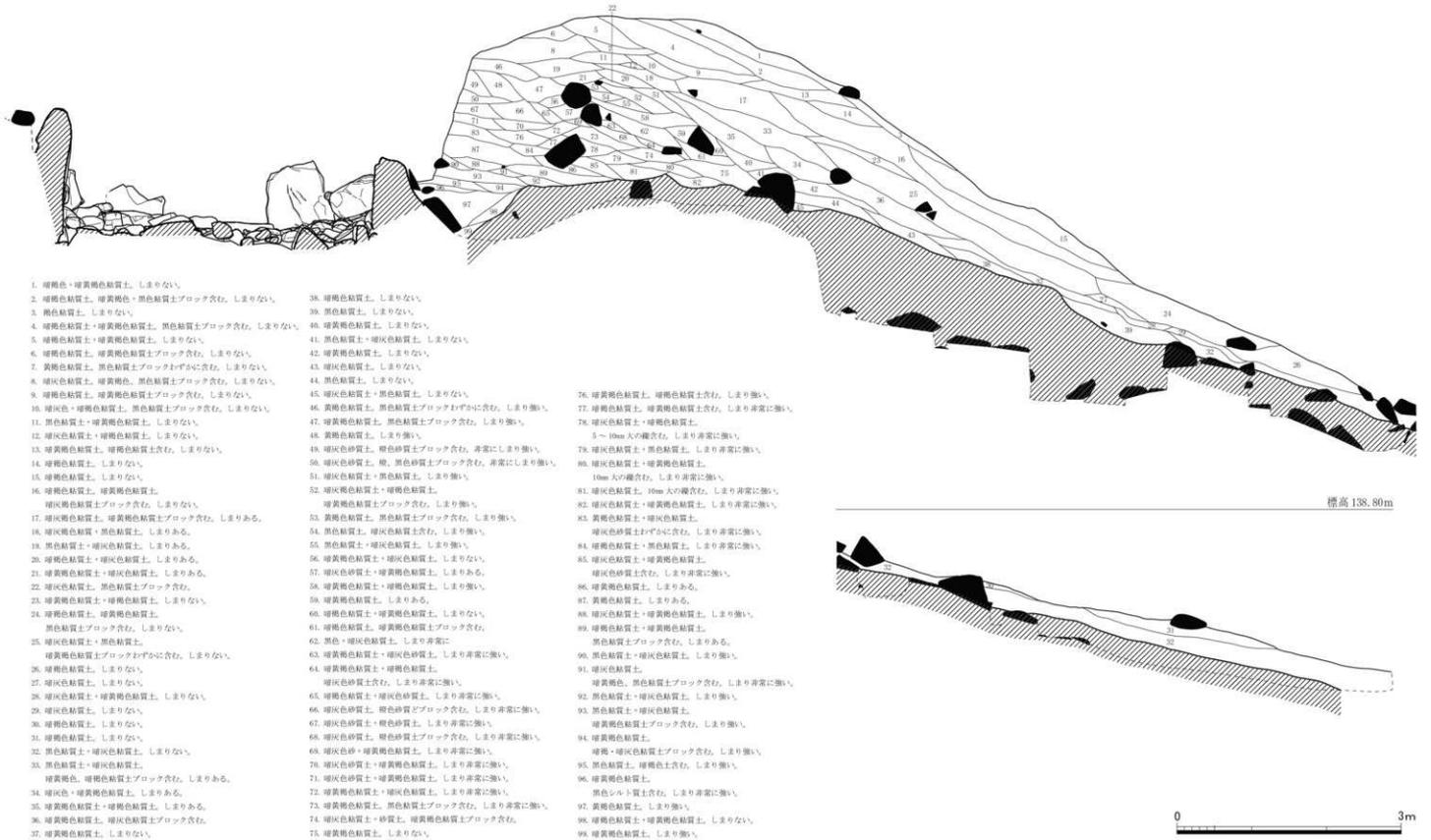


第4图 1号填石室实测图 (1/100)

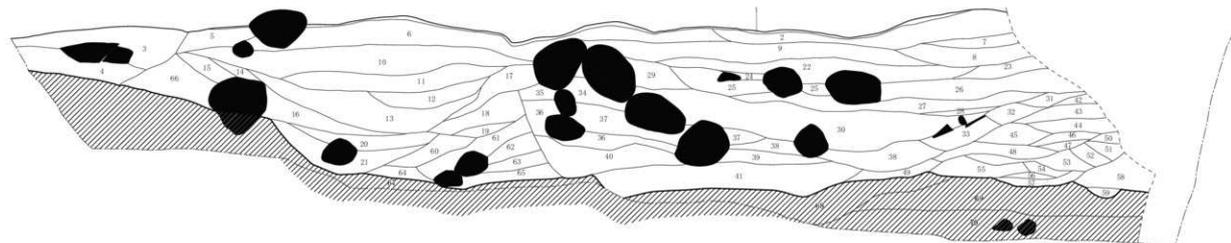
0 2m



第5图 1号墙石列夹测图 (1/150)

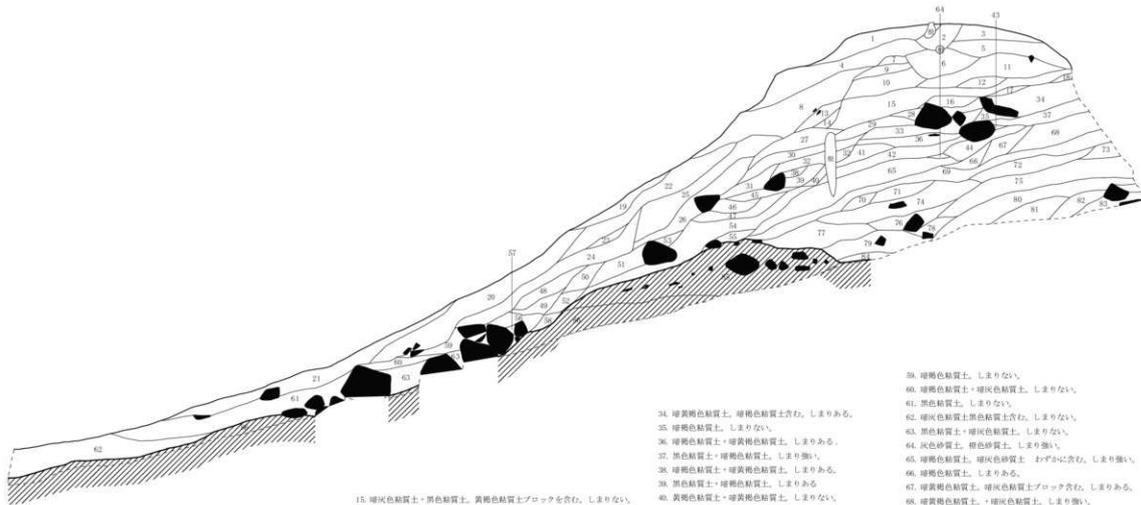


第6図 1号墳北部土層実測図 (1/30)



1. 黒色粘質土。
2. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土ブロック含む。しまり強い。
3. 明褐色粘質土。暗黄褐色粘質土ブロック含む。しまり強い。
4. 暗褐色粘質土。雜含む。しまり非常に強い。
5. 褐色粘質土。しまり非常に強い。
6. 暗黄褐色粘質土。しまり強い。
7. 暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまり強い。
8. 暗黄褐色粘質土。しまり強い。
9. 暗黄褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
10. 暗黄褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまりある。
11. 暗灰色粘質土・褐色粘質土。しまり強い。
12. 黒色粘質土。暗灰色粘質土。しまり強い。
13. 黒色粘質土。しまり強い。
14. 暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
15. 暗黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
16. 暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
17. 黒色粘質土。暗灰色粘質土。しまり強い。
18. 暗灰色粘質土・暗灰色粘質土。しまりある。
19. 暗黄褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
20. 暗黄褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
21. 暗灰色粘質土。しまり強い。
22. 暗灰色粘質土・暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまり強い。
23. 暗灰色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
24. 暗灰色粘質土。しまり強い。
25. 黒色粘質土。しまり強い。
26. 黒色粘質土。しまり強い。
27. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
28. 暗灰色粘質土。しまりある。
29. 暗灰色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
30. 暗褐色粘質土。しまり強い。
31. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
32. 暗灰色粘質土・黄褐色粘質土。しまりない。
33. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土ブロック含む。しまり非常に強い。
34. 黄褐色粘質土・黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
35. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまりない。
36. 暗褐色粘質土。しまりない。
37. 暗黄褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
38. 暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
39. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
40. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
41. 暗黄褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。low入の層多い。しまり非常に強い。
42. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
43. 暗灰色粘質土・暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
44. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロック含む。しまり非常に強い。
45. 暗褐色粘質土・黄褐色粘質土ブロック含む。しまり非常に強い。
46. 暗褐色粘質土。暗灰色・暗黄褐色粘質土ブロック含む。しまり強い。
47. 暗黄褐色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
48. 暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
49. 暗灰色粘質土・暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
50. 暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
51. 暗褐色粘質土・暗褐色粘質土ブロック含む。しまり非常に強い。
52. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
53. 暗褐色粘質土・暗灰色粘質土・黄褐色粘質土。しまり強い。
54. 暗褐色粘質土。暗灰色粘質土ブロック含む。しまり強い。
55. 暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
56. 暗褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまり強い。
57. 黄色粘質土・黄色粘質土。しまり強い。
58. 暗褐色粘質土。しまり強い。
59. 暗褐色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
60. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
61. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりある。
62. 暗褐色粘質土。しまりない。
63. 暗黄褐色粘質土・暗褐色粘質土。しまりある。
64. 暗褐色粘質土・黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
65. 暗褐色粘質土。暗黄褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
66. 暗褐色粘質土・暗褐色粘質土。雜多量に含む。しまり非常に強い。
67. 暗黄褐色粘質土。雜含む。しまり非常に強い。
68. 暗褐色粘質土・暗褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまり非常に強い。(地山)
69. 暗灰色粘質土・黄褐色粘質土。しまり非常に強い。(地山)
70. 暗黄褐色粘質土。しまり強い。(地山)





1. 褐色粘質土。しまりない。
2. 褐色粘質土・黒色粘質土。しまりない。(根による覆土)
3. 褐色粘質土。しまりない。
4. 褐色粘質土・黒色粘質土を含む。しまりない。
5. 暗灰色粘質土。黒色粘質土を含む。しまりない。
6. 褐色粘質土。しまりある。根による覆土か?
7. 暗灰色粘質土。黒色粘質土を含む。しまりない。
8. 褐色粘質土・暗褐色粘質土。5cm大の礫を含む。しまりない。
9. 黒色粘質土。黄褐色粘質土。暗黄褐色粘質土。ブロックを含む。しまりある。
10. 暗褐色粘質土。暗黄褐色粘質土。黒色粘質土・ブロックを多数含む。しまり強い。
11. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土。黒色粘質土・ブロックを含む。しまりない。
12. 暗褐色粘質土。しまりない。
13. 暗褐色粘質土。黒色粘質土を含む。しまりない。
14. 暗褐色粘質土。しまりない。

15. 暗灰色粘質土・黒色粘質土。黄褐色粘質土・ブロックを含む。しまりない。
16. 黒色粘質土。暗灰色粘質土を含む。しまり強い。
17. 黄褐色粘質土・黒色粘質土。しまりある。
18. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
19. 褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりない。
20. 褐色粘質土。しまりない。
21. 暗黄褐色粘質土。しまりない。
22. 暗褐色粘質土・褐色粘質土。しまりない。
23. 暗褐色粘質土。しまりない。
24. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりない。
25. 暗褐色粘質土。しまりない。
26. 暗褐色粘質土。暗黄褐色粘質土をわずかに含む。しまりない。
27. 暗灰色粘質土。黒色粘質土。しまりない。
28. 黄褐色粘質土。暗灰色粘質土・ブロックを含む。しまり強い。
29. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。黄褐色粘質土を含む。しまり強い。
30. 暗褐色粘質土。しまりない。
31. 暗褐色粘質土。黒色粘質土を含む。しまりない。
32. 黒色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
33. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまり強い。

34. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりある。
35. 暗褐色粘質土。しまりない。
36. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりある。
37. 黒色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
38. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりある。
39. 黒色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりある。
40. 黄褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりない。
41. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
42. 暗黄褐色粘質土。黒色粘質土を含む。しまり強い。
43. 暗褐色粘質土。黒色粘質土を含む。しまりない。
44. 暗褐色粘質土。しまりない。
45. 黒色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりない。
46. 暗褐色シルト質土。しまりない。
47. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
48. 褐色粘質土。しまりない。
49. 暗黄褐色粘質土。
50. 暗灰色粘質土・黒色粘質土。しまりない。
51. 黒色粘質土。しまりない。
52. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりない。
53. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりない。
54. 黄褐色粘質土。しまりない。
55. 暗灰色粘質土。黄褐色粘質土を含む。しまり強い。
56. 黒色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりない。
57. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまりない。
58. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりない。
59. 暗褐色粘質土。しまりない。
60. 暗褐色粘質土・暗灰色粘質土。しまりない。
61. 黒色粘質土。しまりない。
62. 暗灰色粘質土・黒色粘質土を含む。しまりない。
63. 黒色粘質土・暗褐色粘質土。しまりない。
64. 灰色砂質土。棕色砂質土。しまり強い。
65. 暗褐色粘質土。暗灰色砂質土。わずかに含む。しまり強い。
66. 暗褐色粘質土。しまりある。
67. 暗黄褐色粘質土。暗灰色粘質土・ブロックを含む。しまりある。
68. 暗黄褐色粘質土。暗灰色粘質土。しまり強い。
69. 暗褐色粘質土・ブロック。棕色砂質土・暗褐色土・ブロック。しまり非常に強い。
70. 暗灰色砂質土。暗黄褐色土・ブロックを含む。しまり強い。
71. 暗黄褐色粘質土・暗褐色粘質土。しまり強い。
72. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土。しまり強い。
73. 暗黄褐色粘質土。しまり強い。
74. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
75. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土。しまりある。
76. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまり強い。
77. 暗黄褐色粘質土。1cm大の礫を含む。しまりない。
78. 暗褐色粘質土。しまり強い。
79. 暗灰色砂質土。暗褐色粘質土・わずかに含む。5～15cmの礫を含む。
80. 暗黄褐色粘質土。1cm大の小礫を含む。しまり強い。
81. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。しまり強い。
82. 暗黄褐色粘質土。しまり強い。
83. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまり強い。
84. 暗褐色粘質土。10cm以上の礫多量に含む。しまりない。
85. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土を含む。しまりない。
86. 暗褐色粘質土。しまりない。堆土。



墳丘は石列に囲まれ、方形を呈する。長軸 12.9 m、短軸 9.8 m、標高の最大比高は 4.2 m を測る。北東から南西に向かって標高が下がる斜面地に立地しているため、南北の土層断面図では南部の最高位が標高 142.7 m、北部の最高位が標高 141.6 m を測り、1 m 以上の高低差がある。地山整形に際し、南部ではおよそ標高 141.4 m と 141 m の付近で、北部ではおよそ標高 140.1 m 付近で平坦面を整形している。石室はさらに標高 139.7 m 程度まで掘り下げ平坦面を作っている。積土は基本的に地山整形した平坦面上に積み上げられる。地山面直上は盛土を固く締めているが、上層の土は柔らかく、版築は施されていない可能性が高い。前庭部の埋土には黒色の層が 2 層厚く堆積しているが、同様な堆積は南トレンチの石列外部に確認できる。また、切通道路の崖面にも同様な堆積が確認できることから、自然の堆積であることがわかる。積土は 10 ～ 15 cm 程度の暗灰色砂質土、黄褐色粘質土、黒色粘質土が主体となっている。南トレンチ、南西トレンチ、北西トレンチの土層断面では石列の下部にも積土が認められる。さらに南トレンチでは石列外部の下部は締まりがあるため積土の可能性はある。一方南西トレンチ、北トレンチ、北西トレンチの土層断面では石列外部に積土は確認できない。北側は斜面のため、積土の大半は下部に流出していると考えられる。東トレンチでは石列が確認できないが、42 層から下部は締まりがあり、積土の可能性はある。攪乱内の土層では石列の下部にも積土が確認でき、石列外部の下部も締まりがあるため、積土の可能性はある。

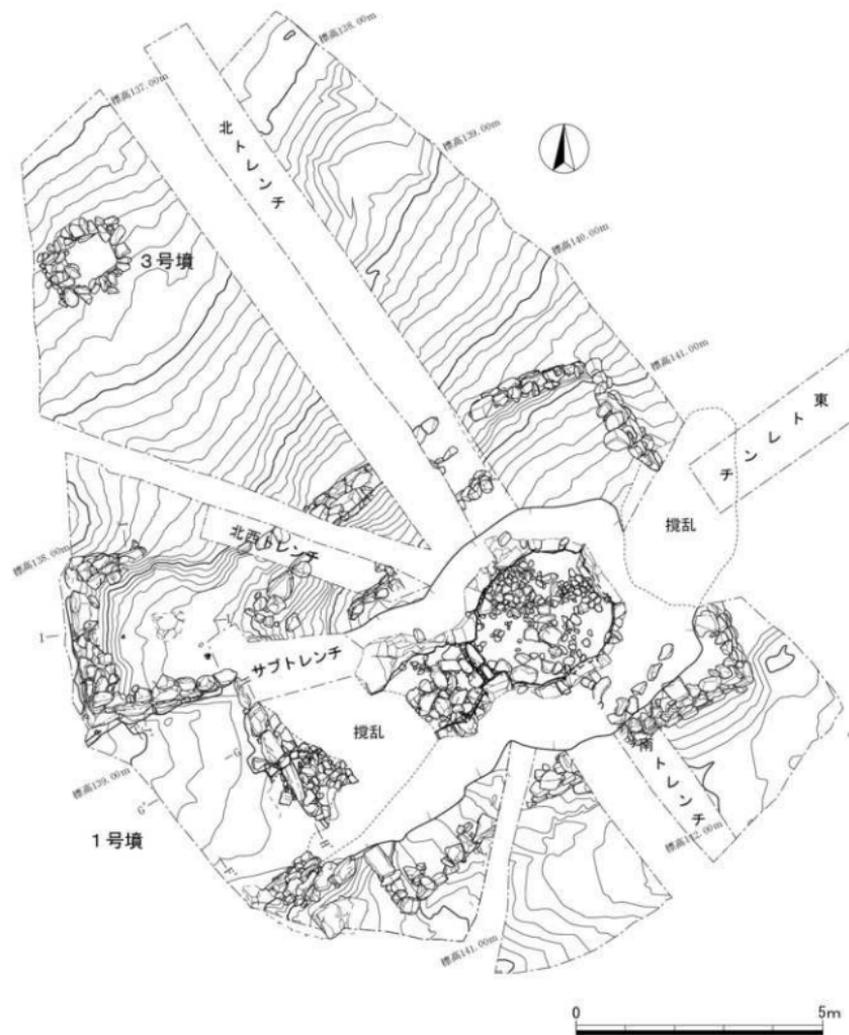
#### 内部主体（第 4 図）

西側に向かい開口する複式構造の横穴式石室である。玄室、前室、羨道からなるが、羨道部は崩落し、側壁、敷石は確認できなかった。石室の主軸方向は概ね  $N-55^{\circ}-E$  である。奥壁から前庭部までの長さは 10.1 m、床面の標高は玄室 139.8 m 前後、前室 139.85 m 前後である。石室の上部は崩落しているため、側壁は 1 ～ 3 段残存する程度である。石材の多くは花崗岩で、稀に片岩がみられる。角が丸みを帯びた角礫を主に使用している。遺物は玄室、前室、羨道の床面直上からはほとんど出土していない。

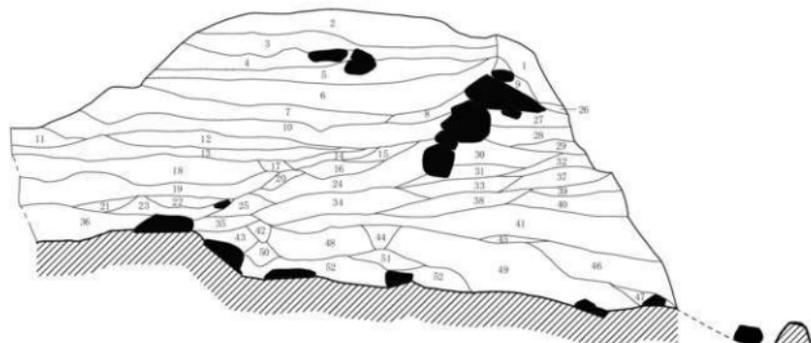
玄室の規模は中軸線上で奥壁から玄門仕切り石までの長さ 2.75 m、奥壁幅 1.35 m、奥壁の高さ 1.45 m、袖石の内側幅は 0.85 m、最大幅は 2.5 m である。平面プランは円形に近い胴張りを呈す。南北の側壁中央には比較的大きな石を用い、北側中央は高さ 75 cm、南側中央は高さ 115 cm を測る。玄室の敷石は前室に比べまばらな大きさの角礫、円礫が敷かれ、標高も揃わず配置も整然としていないため、原位置を保っていない可能性が高い。玄門は南北ともに上部が欠損しており、上部から大きな力が加わり折れたと考えられる。

前門は失われており、残存する前室の長さは 2.1 m、最大幅 1.65 m を測る。北側壁は幅 2 m、厚さ 95 cm、高さ 1 m の一枚岩を用いており、弧を描くように加工されている。表面には直径 10 cm 程度の加工痕も残る。前室の平面プランは胴張りを呈す。敷石は長さ 30 ～ 50 cm 程度の角礫を主に使用しており、一面のみであるが、玄室に比べ残存状況は良い。敷石には鋸歯状に粗い加工が残るものもみられる。

羨道は敷石、側壁も残存していないが、20 cm 大の円礫が 1 ～ 3 段残存する閉塞石が一部残存し



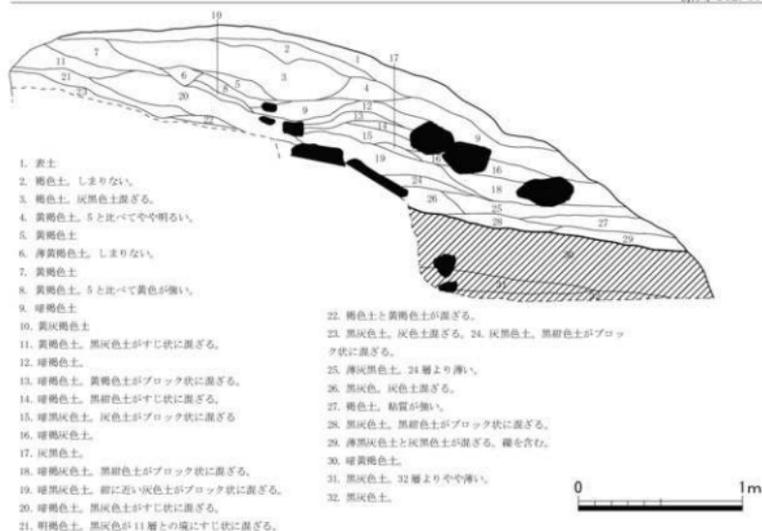
第9図 1号墳掘削後地形測量図 (1/100)



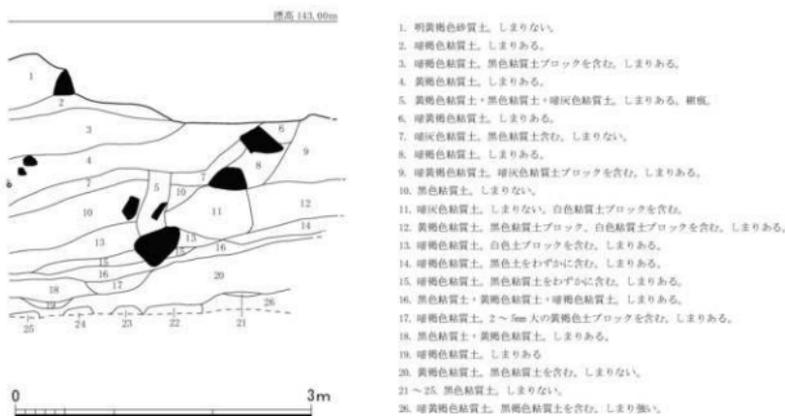
1. 黒色粘質土・暗褐色粘質土。しまりない。
2. 暗褐色・黒色粘質土。しまりない。
3. 暗褐色・暗黄褐色粘質土。しまりない。
4. 暗黄褐色粘質土。しまりない。
5. 暗褐色粘質土。暗灰・暗黄褐色粘質土含む。しまりある。
6. 黒色粘質土。しまりある。
7. 暗褐色粘質土。しまりある。
8. 暗灰色・黒色粘質土。しまりない。
9. 暗灰色粘質土。黒色粘質土。ブロック含む。しまりある。
10. 暗灰色粘質土・黒色粘質土。暗褐色粘質土。ブロック含む。しまりある。
11. 暗灰色粘質土。暗褐色粘質土。ブロック含む。
12. 暗黄褐色粘質土・砂質土。しまり強い。
13. 暗灰色粘質土。しまりある。
14. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまりある。
15. 暗灰色粘質土。黒色粘質土。ブロック含む。しまりある。
16. 暗灰色粘質土。しまりある。
17. 暗灰色粘質土。暗褐色粘質土含む。しまりある。
18. 暗黄褐色粘質土。砂質土をわずかに含む。しまりある。
19. 暗灰色粘質土。暗灰色砂質土とわずかに含む。しまり非常に強い。
20. 暗灰色粘質土・暗黄褐色粘質土。
21. 暗褐色・暗灰色砂質土。しまり非常に強い。
22. 暗褐色・暗灰色砂質土。しまり非常に強い。
23. 暗褐色粘質土。しまり強い。
24. 暗灰色・暗黄褐色砂質土。しまり非常に強い。
25. 黄褐色粘質土。しまりある。
26. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
27. 暗灰色粘質土・黒色粘質土。しまり強い。
28. 黄褐色粘質土。しまりある。
29. 暗黄褐色粘質土。礫多く含む。しまりある。
30. 暗褐色粘質土・暗黄褐色粘質土。礫含む。しまり強い。
31. 黄褐色粘質土。しまりある。
32. 暗褐色粘質土。礫多く含む。しまり強い。
33. 黒色粘質土。暗灰色粘質土含む。しまり非常に強い。
34. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
35. 暗灰色粘質土。黒色粘質土含む。しまり非常に強い。
36. 暗灰色粘質土・暗灰色砂質土。しまり非常に強い。
37. 暗褐色砂質土・黒色粘質土。5m 大の礫多量。しまり強い。
38. 黒色粘質土・暗褐色粘質土。しまり非常に強い。
39. 暗黄褐色粘質土。暗褐・黒色粘質土。ブロック含む。しまり非常に強い。
40. 黒色・暗黄褐色粘質土。しまり非常に強い。
41. 暗黄褐色粘質土・砂質土。暗褐色粘質土含む。しまり強い。
42. 暗灰色粘質土。黒色粘質土をわずかに含む。しまり強い。
43. 暗褐色粘質土・砂質土。しまり非常に強い。
44. 暗黄褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまり強い。
45. 暗黄褐色粘質土・黒色粘質土。しまり非常に強い。
46. 暗黄褐色粘質土。黒色粘質土をわずかに含む。
47. 暗黄褐・暗褐色粘質土。しまり強い。
48. 黒色粘質土・暗灰色粘質土。しまり非常に強い。
49. 黒色粘質土。しまり非常に強い。
50. 暗褐色砂質土。しまり非常に強い。
51. 暗黄褐色粘質土・暗褐色粘質土。しまりない。
52. 暗黄褐・暗褐色粘質土・砂質土。礫多量に含む。しまり非常に強い。

第 10 図 1号墳南部土層実測図 (1/30)

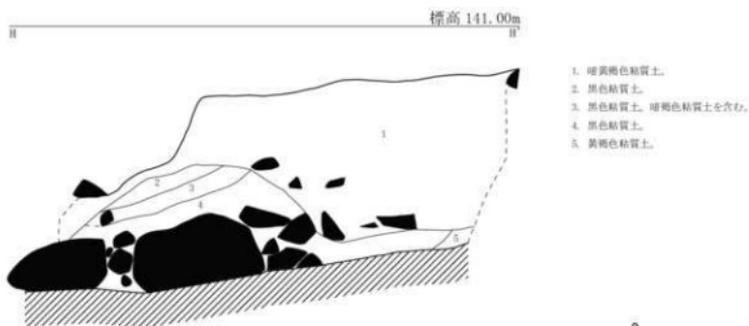
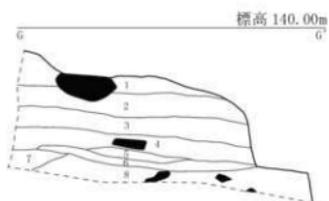
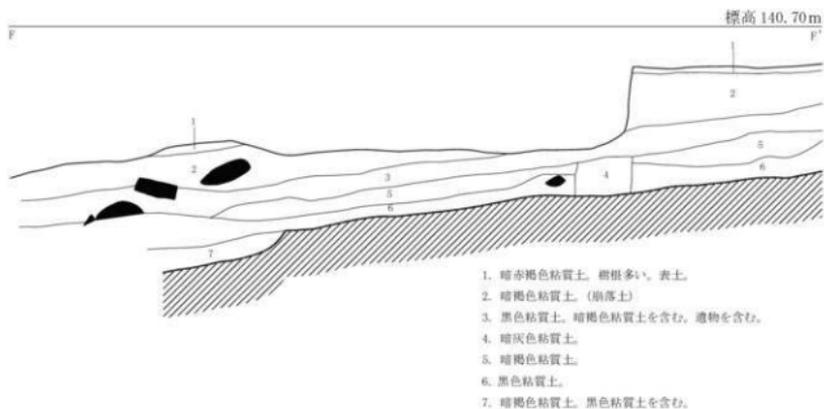
0 1m



第11図 1号墳南西部土層実測図 (1/30)

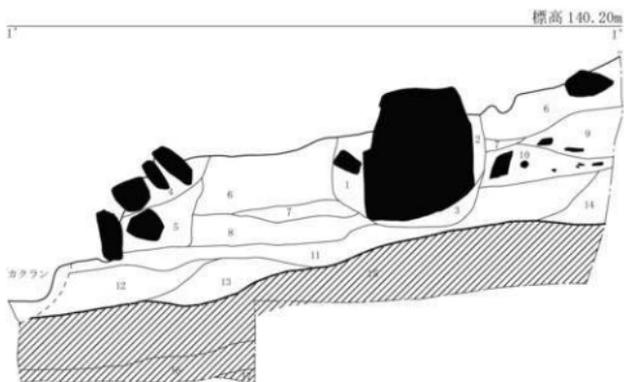


第12図 1号墳東部カクラン土層実測図 (1/30)

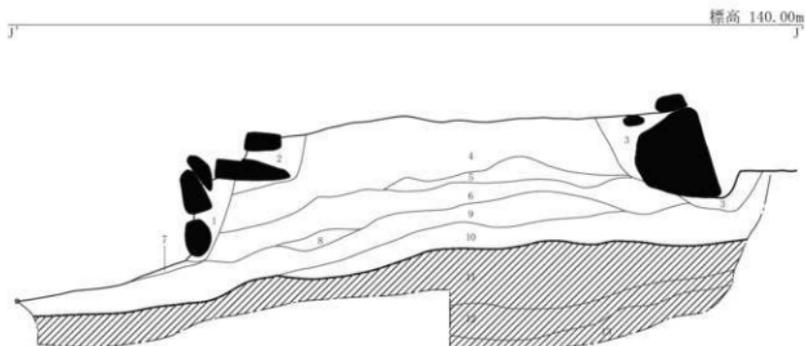


0 1m

第 13 図 1号墳前底部土層実測図 (1/40)



1. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
2. 暗褐色粘質土。暗黄褐色粘質土含む。5mm 大の礫を多数に含む。しまりある。
3. 暗褐色粘質土。5～10mm 大の礫を含む。しまりない。
4. 暗褐色粘質土。粗多し。しまりない。
5. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土をわずかに含む。しまり弱い。
6. 黄褐色粘質土。しまり弱い。
7. 暗褐色粘質土。しまり弱い。
8. 暗黄褐色粘質土。しまり弱い。
9. 黄褐色粘質土。礫を含む。しまりある。
10. 暗褐色粘質土。礫を含む。しまりある。
11. 暗褐色粘質土。暗灰色粘質土含む。5mm 大の炭化物含む。しまり弱い。
12. 黄褐色粘質土・暗褐色粘質土。3～5mm 大の炭化物含む。1cm 大の小礫含む。しまりある。
13. 黄褐色粘質土。2～3mm 大の炭化物含む。しまりある。
14. 暗灰色粘質土・暗褐色粘質土。暗褐色粘質土。5mm 大の炭化物含む。しまりある。
15. 暗黄褐色粘質土。5mm 大の小礫含む。
16. 暗赤褐色粘質土。2～3mm 大の炭化物含む。5mm 大の小礫含む。
17. 暗赤褐色粘質土。暗褐色粘質土含む。2～3mm 大の炭化物含む。



1. 暗褐色粘質土。粗多し。しまりない。
2. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土をわずかに含む。しまり弱い。
3. 暗黄褐色粘質土。5mm 大の小礫含む。
4. 黄褐色粘質土。しまり弱い。
5. 暗褐色粘質土。しまり弱い。
6. 暗黄褐色粘質土。しまり弱い。
7. 浅黄褐色粘質土。砂含む。しまりある。
8. 暗褐色粘質土。しまりある。
9. 暗褐色粘質土。暗灰色粘質土含む。5mm 大の炭化物含む。しまり弱い。
10. 黄褐色粘質土。2～3mm 大の炭化物含む。しまりある。
11. 暗黄褐色粘質土。5mm 大の小礫含む。
12. 暗赤褐色粘質土。2～3mm 大の炭化物含む。5mm 大の小礫含む。
13. 暗赤褐色粘質土。暗褐色粘質土含む。2～3mm 大の炭化物含む。



第 14 図 突出部土層実測図 (1/30)

ている。閉塞石の西前面には長さ60～82cm、幅20～50cm、高さ35～50cmと閉塞石よりも大きな板石を直線に並べ、羨道と前庭を区切っている。玄室、前室の向きや、残存する閉塞石から羨道は幅1.5m程度が想定される。

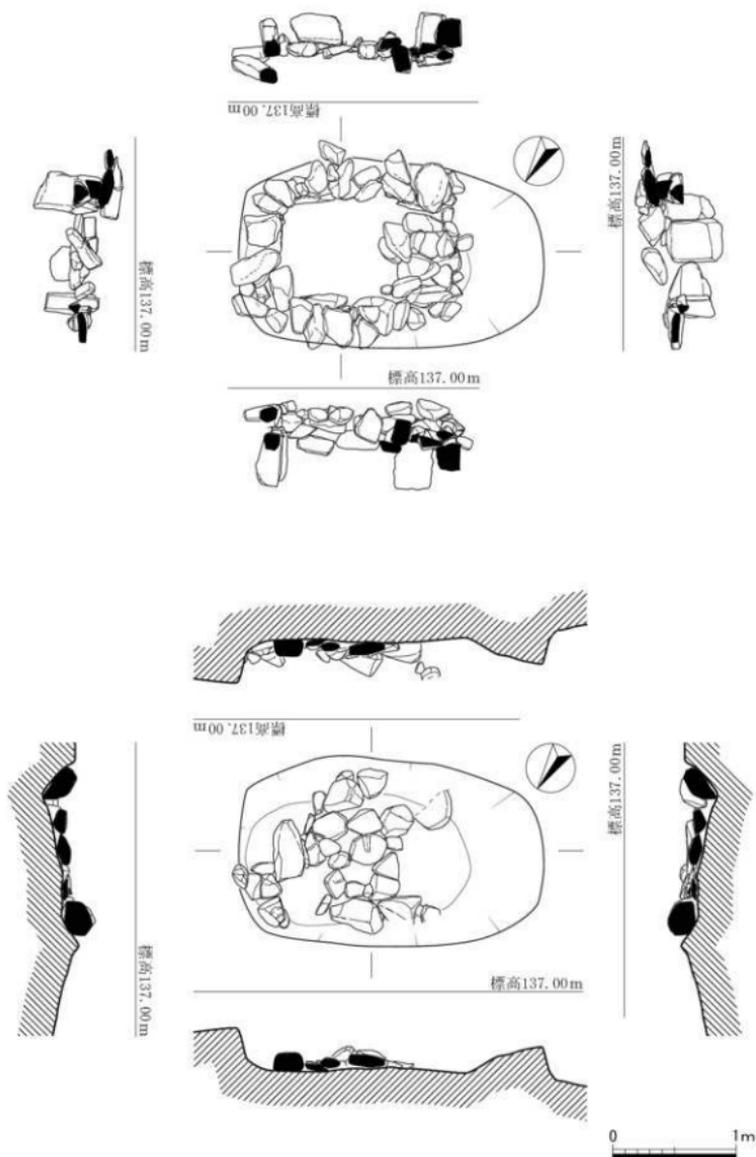
前庭と羨道の境界も欠損が著しく、詳細は不明であるが、南側壁は羨道から直線的か、30～50cm南へ広がり、西へ1.4m延びる。北側壁は1.8m北へ広がり、西へ3m延びる。南北に延びる石列と東西に延びる石列は同時に組まれたと考えられ、南北の石列の延長部は突出部内部では確認できない。前庭部の西端は道路により削平されており不明であるが、突出部は完存する。前庭部の幅は東部3.8m、西部4.6mで、平面プランはハの字状を呈す。底面の標高は南東から北西に下がる。突出部付近の底面では完形の小壺が出土した。南側壁は4・5段が残存し、高さ1.1mを測る。西端は道路造成の際に欠損している可能性がある。北側壁は50～80cmの高さに石を2・3段積み上げ、突出部へ繋がる。石積みの傾斜角は南側壁で52°程度、北側壁で63°である。

#### 突出部（第14図）

前庭部の北側に1～3段の石列を廻らし、方形に区画された空間である。西辺は3.5m、北辺は1.7mの長さを測る。石列の内側は周囲より50～80cm盛られ、中央には60cm大の巨石が埋設している。標高は南東から北西へ緩やかに下がる。石列南西、北西隅の石積みは、上下で稜線が揃えられ、角を意識している。石列の内側は水平に埋土が堆積している。突出部と古墳の積土に先後関係は窺えず、同時に築造されていると考えられる。第1次調査で出土した遺物の多くは突出部の上部、またはその周辺で出土しており、突出部上面から出土した遺物とその周辺で出土した遺物が接合関係となる場合が多い。突出部の上部が祭祀空間として利用されていたと考えられる。主軸方位はN-79°-Eである。突出部の北西側は窪み状になっている。

#### 外部列石（第5図）

古墳の周囲や墳丘に設定した各トレンチで列石が見られる。積土の外側を廻る石列と内側を廻る石列があり、外側の石列は、一部欠損しているが墳丘の周囲を北辺、東辺、南辺の3辺が、方形状に廻る。西辺については崩落が著しく、南部の一部で残存するのみである。石列主軸方向は石室の主軸方向やその垂直方向とほぼ同じで、標高は南東から北西に下がる。北辺と東辺は外側にわずかに膨らみ、南辺は内側にわずかに窪む。北辺で8.3m、東辺で7.3m、南辺で8.5mを測る。玄室中心部から北辺まで4.7m、東辺まで4m、南辺まで3.5mある。東辺と南辺は3・4段程度の石積みが残存するが、北辺は残存状況が悪く1～2段程度残存する箇所がほとんどである。崩落前ほどの程度の高さまで石が積まれていたかは不明である。墳丘下の斜面地に多量の石材が散在しており、崩落した列石の石材であると考えられる。石積みの傾きは残存状況が良好な箇所では北辺53°、東辺58°、南辺56°である。積土の内部の石列は北辺で2列、南辺で1列の列石が断片的に確認できる。北辺で最も内側にある列石は2・3段の石積みが残るが、そのほかは1・2段程度しか積まれていない。積土内に含まれているため内護列石であると考えられる。北辺中段の列石はわずかに弧を描くが、北辺上段、南辺内側の列石は直線を呈す。北辺上段列石の軸方位はN-43°-E、



第15圖 3号墳実測図(1/40)

南辺内側列石の軸方位はN-36° - Eと石室の軸方位と大きく異なる。

### 3号墳 (第15図、図版7)

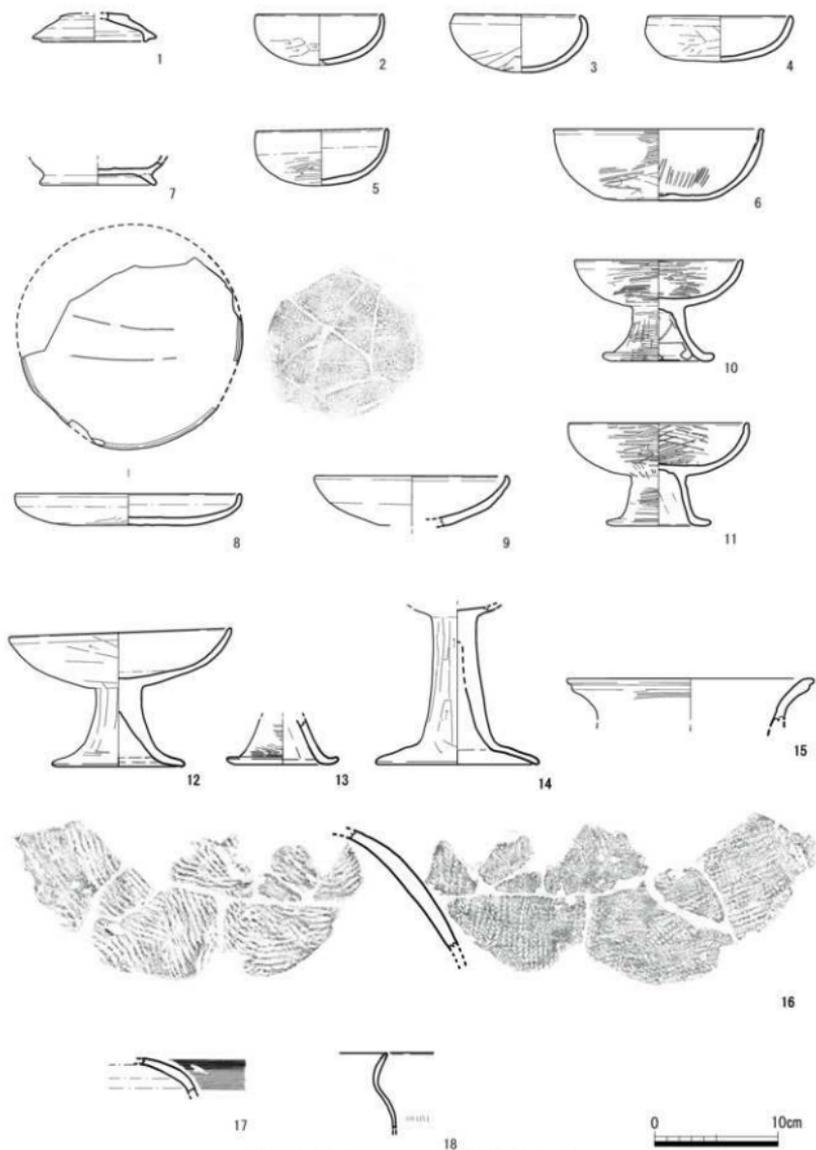
1号墳の北6mに位置する小石室である。掘削前は表土に覆われ存在を確認できなかったが、掘削を進めると、礫の集中が確認されたため小石室と判断した。積土は確認できず、石室が確認できるのみである。斜面地であるが、周囲の地山を掘削し、平坦面を造成している。石室の上部は崩落しており、石室内に石材が落ち込んでいた。石材は花崗岩の円礫を使用している。長軸1.9m、短軸1.7mを測る。側壁は2・3段の石積みの確認でき、45cm程度の高さとなる。西側が開口する横穴式石室を意識していると考えられ、奥壁と対応する東側の3石、袖石に対応する西側の2石は、高さ35～45cmと他の石材より大きな石を用いている。敷石を据える底面は地山を水平に掘削し、側壁の基部のみ深く掘りこんでいる。敷石は標高136.5m程度に揃えている。

### 3. 出土遺物 (第16～19図、図版8～11)

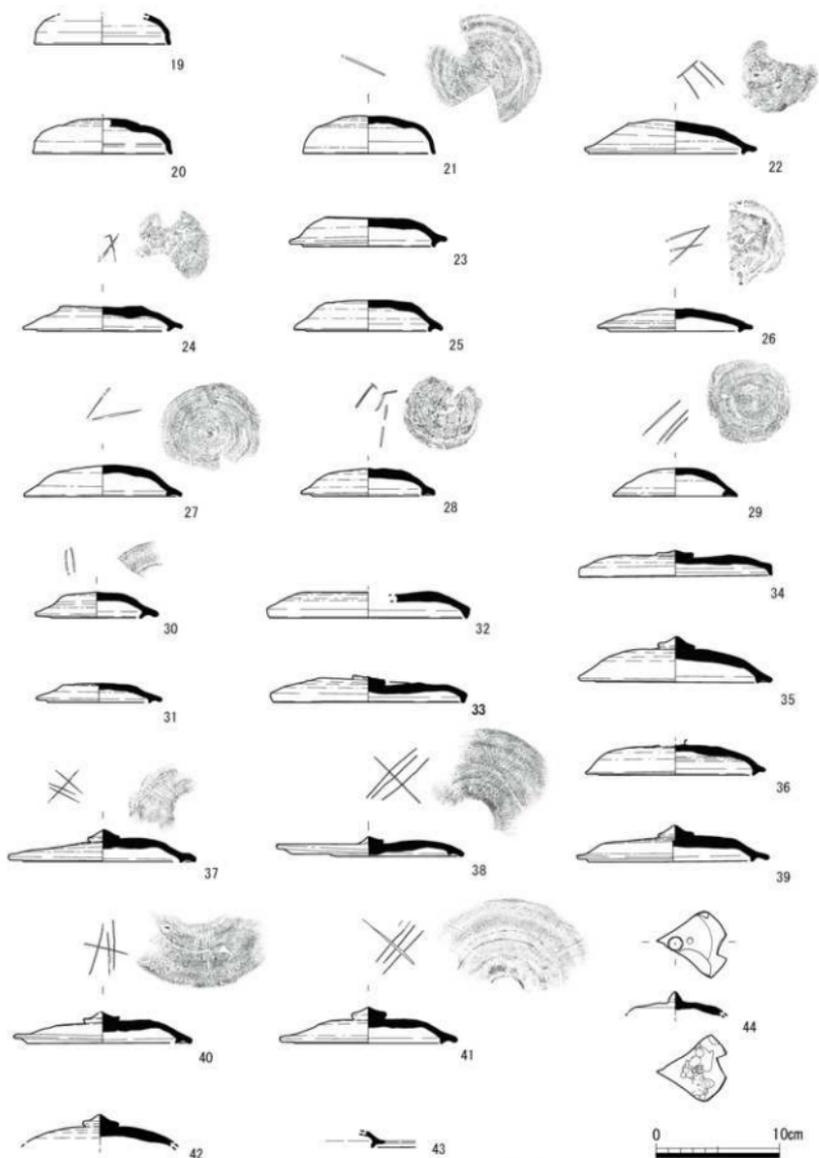
1号墳の出土遺物は、ほとんどが突出部周辺で出土している。主な遺物は土師器、須恵器、金属器、縄文土器、石器である。

1～18は土師器としているが、7、14、18は焼成不良の須恵器の可能性ある。1はかえしを有す蓋である。2～5は坏である。2～4は外面に手持ちヘラゲズリを施す。3は口縁がわずかに内傾する。5は外面にミガキを施す。6は鉢で外面にミガキを施し、内面には暗文を施す。8は皿で内面にヘラ記号を有する。9～14は高坏で、10・11は内外面にミガキを施し、にぶい赤褐色を呈する。脚部端部はわずかに立ち上がる。15・16は甕で、15は口縁部、16は胴部である。15は口縁端部に段を有する。17・18は壺である。17は外面にカキ目を施す。19～86は須恵器。19～44は蓋で12点が外面にヘラ記号を有する。44は内外面の表面が欠ける。23～31は小型で身受けにかえしを有する。32～34はいわゆる嘴状口縁でツمامミを有する。45～69は坏身であり、25点中半数以上の14点が底面にヘラ記号を有する。45～50はかえしを有し、61～69は高台を有する。70～74は高坏である。73はひずみが著しい。75・76は小壺である。75は底部に、ヘラ記号を有し、76は胴部に焼成後の穿孔が施される。77～82は壺である。77・78は口縁部で2条の沈線を有する。79は胴部に穿孔が施され、79・80は底部にヘラ記号を有する。83・84は平瓶である。85・86は甕で、85は口縁のみ、86は胴部のみである。87～89は縄文土器である。90～94は鉄製品。90は先端と基部が欠けているが、有茎方頭形である。91は鉄釘であり、断面は長方形である。92～94は器種不明である。92は基部、先端部が欠けているが、先端は鋭い。93は厚さ6mmで、基部、先端を欠く。基部側には木質がわずかに残る。94は弧を描く板状であるが細片であるため詳細は不明である。95・96は石器。95は黒曜石製の石鏃で基部を一部欠く。96は安山岩製の板状の剥片素材の刃部をわずかに加工したスクレイパーである。

その他の遺物の詳細については出土遺物観察表を参照されたい。



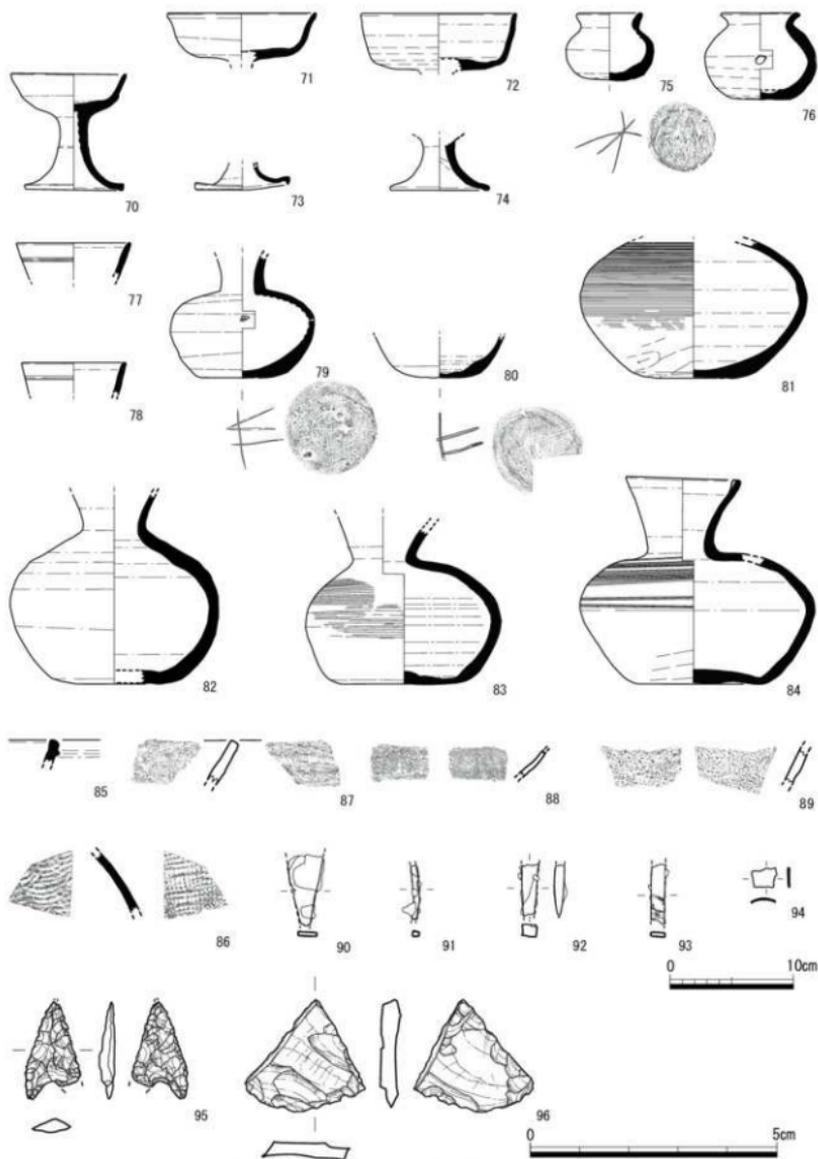
第 16 图 第 1 次調査出土遺物実測図① (1/4)



第17図 第1次調査出土遺物実測図② (1/4)



第18図 第1次調査出土遺物実測図③ (1/4)



第19圖 第1次調査出土遺物実測図④ (1/4、1/1)

第1表 第1次調査出土遺物観察表①

| 遺物<br>番号 | 出土遺物  | 種類  | 数量 | 法量     |       |       |       | 転倒 |    |    |    | 出土 | 備考 | 遺物番号番号 |    |            |            |
|----------|-------|-----|----|--------|-------|-------|-------|----|----|----|----|----|----|--------|----|------------|------------|
|          |       |     |    | 総長(長さ) | 幅(厚)  | 高さ(厚) | 底長(厚) | 外径 | 内径 | 外径 | 内径 |    |    |        |    |            |            |
| 1        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.40  | 10.40 | 12.30 | 12.30 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 片取         | 2020000024 |
| 2        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.20  | —     | —     | 14.11 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 3        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.4   | —     | 4.6   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 4        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.8   | 6.9   | 3.75  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 5        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.7   | —     | 4.83  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 6        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.30  | 10.30 | 5.43  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 7        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | 19.43 | 11.91 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 8        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.30  | 12.4  | 2.51  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 9        | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.9   | —     | 4.1   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 10       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.60  | 9.9   | 8.23  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 11       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 14.60  | 10.40 | 8.4   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 12       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 16.8   | 10.2  | 11.5  | 10.6  | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 13       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | 19.90 | 5.7   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 14       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.30  | 11.43 | —     | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 15       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.30  | —     | 13.40 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 16       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | 19.80 | —     | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 17       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 13.90 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 18       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 16.33 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 19       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.40  | —     | 12.10 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 20       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.20  | 10.40 | 12.80 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 21       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 16.7   | 10.40 | 3.1   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 22       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.60  | 11.33 | 3.8   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 23       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.60  | 10.40 | 2.4   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 24       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.60  | 10.9  | 2.6   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 25       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 16.9   | 7.9   | 3.5   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 26       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.40  | 10.40 | 4.8   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 27       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.9   | —     | 2.9   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 28       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 16.0   | 8.9   | 2.13  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 29       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | 10.30 | 2.2   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 30       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 8.9    | 7.1   | 2.1   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 31       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 18.30  | 10.40 | 4.6   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 32       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 16.10  | —     | 12.11 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 33       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.9   | 5.65  | 2.7   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 34       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.9   | 3.8   | 2.16  | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 35       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 12.1   | 11.60 | 2.7   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 36       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 12.4   | 14.5  | 10.10 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 37       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 15.1   | 13.4  | 2.6   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 38       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 13.13  | —     | 3.8   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 39       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.5   | 11.1  | 2.6   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 40       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 2.8   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 41       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 11.30  | 14.30 | 2.9   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 42       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 12.43 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 43       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 11.45 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 44       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 11.45 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 45       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 19.80  | 12.20 | 4.1   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 46       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 2.2   | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 47       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | —      | —     | 11.40 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |
| 48       | 1号溝南段 | 土師器 | 甕  | 19.10  | —     | 13.41 | —     | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取 | 片取     | 片取 | 2020000024 |            |



## IV. 第2次調査

### 1. 調査の目的と経過

本調査は山王古墳群2号墳が作業用道路建設の際に破壊されるため、2号墳の規格や規模、時期を明らかにするために調査を実施した。

令和3年4月15日に機材搬入し、調査を開始した。草木の伐採と並行して地形測量を行った。地形測量を5月31日に終了した後、6月1日から掘削を開始した。掘削するにあたり、樹木の伐採が必要となり、久留米市が業者に依頼し5月18日に樹木の伐採を行った。掘削と並行して石室や石組み、遺物集中部の実測図の作成や写真撮影を行った。11月4日、廃土置き場確保のため、バックホウで廃土を移動し、一部埋土も掘削した。また古墳の範囲確認のため、古墳正面にあった祠の下部も掘る必要があったことから、11月5日に祠を琴平神社参道横に移転した。石列の概要が明らかになり始めた段階で12月19日に現地説明会を実施し、48名の参加者が見学した。12月17日にドローンで全体写真を撮影し、追加でトレンチ掘削、図面作成を行った。2号墳は完全に消滅するため、積土内部の状況や地山掘削の範囲等を把握する必要があり、石室の外部を検出するまで積土を掘削した。2月7日に掘削が終了し、再度ドローンで全体写真を撮影した。その後、図面作成、写真撮影を行い、2月15日に機材を撤収し現地調査を終了した。

地形測量は、平板を用い作成し、個別遺構・土層実測図は水系メッシュ法で記録したが、それ以外の遺構実測はトータルステーションを用い、株式会社CUBIC社製ソフト「遺構くん cubic」でデータを編集・保管している。遺構写真は、空中写真を(有)空中写真企画がCanon EOS 5D Mark IIで撮影し、その他をPENTAX K-1 Mark IIデジタルカメラで撮影した。オルソ画像や一部の画像はAgisoftMetashapeと遺構くん cubicを用いて作成した。

### 2. 遺構の概要

調査地は標高146mの耳納連山西斜面に位置し、西側12mには石垣川によって開析された谷がある。川との比高は10m程度である。2号墳は羨道の上部が欠損しているのみで、ほぼ完形であり、開口された羨道部から内部へ入ることも可能であった。古墳の正面には寛政十二年(1800)の銘がある祠があり、祠から古墳へ延びる小道があった。また、1号墳南西部の道路露頭で土坑状の窪みがあった。

#### 2号墳 (図版12～20)

#### 墳丘 (第24～27図)

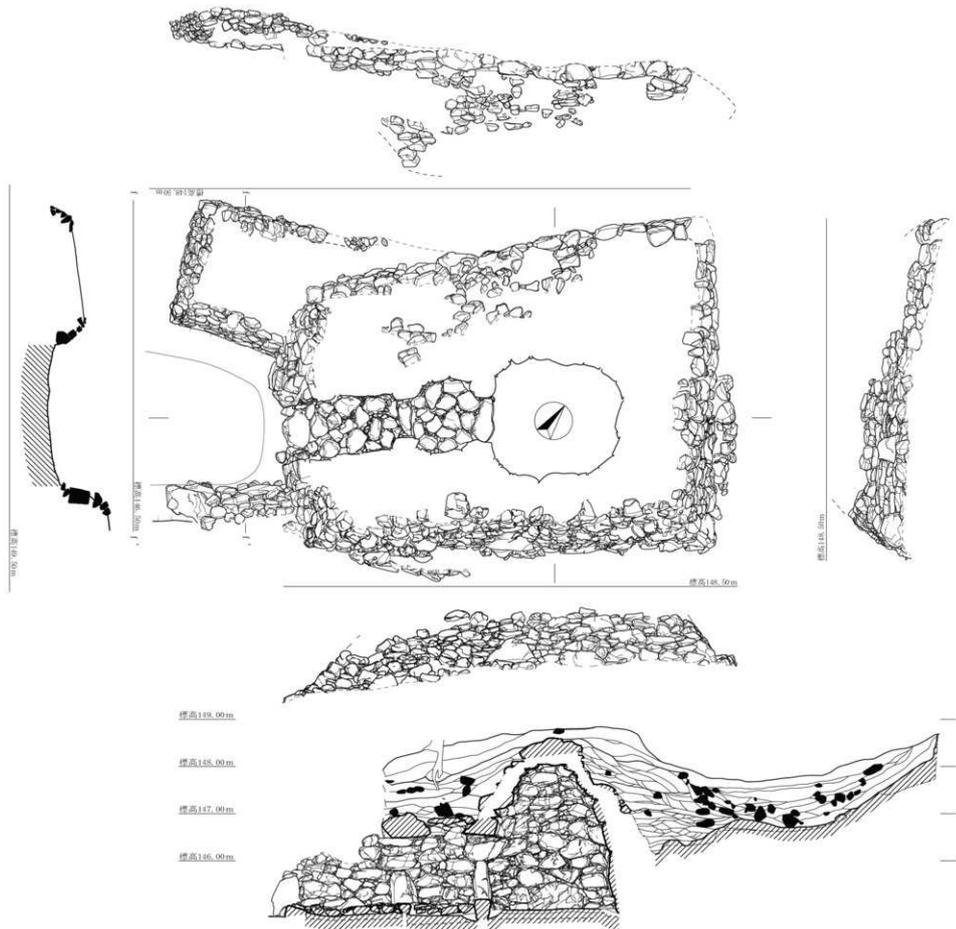
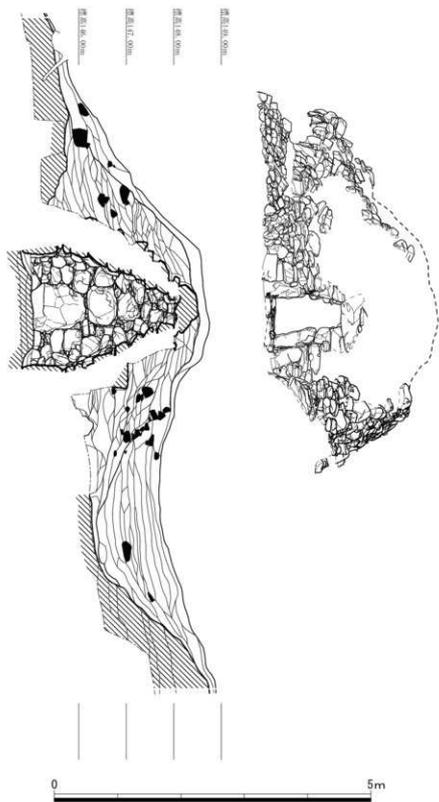
2号墳は1号墳の30m北、斜面の傾斜変換地点に位置する。調査前、平面形は隅丸方形を呈し、墳頂部は周囲から2.8m程度の高さがあった。掘削後、墳頂部の周囲との比高差は斜面地下に位置することから、西部、東部、南部は1m程度埋没している一方で、北部は積土の一部が斜面下に流れ出ていることが分かった。前庭の埋土や、南部石列外側の埋土は1号墳と同様、自然堆積による



第20图 2号墳石室夷測圖 (1/60)



第 21 图 2 号填石室画像 (1/120)



第22图 2号填石列寨测图 (1/80)



第 23 图 2 号墳石列画像 (1/150)

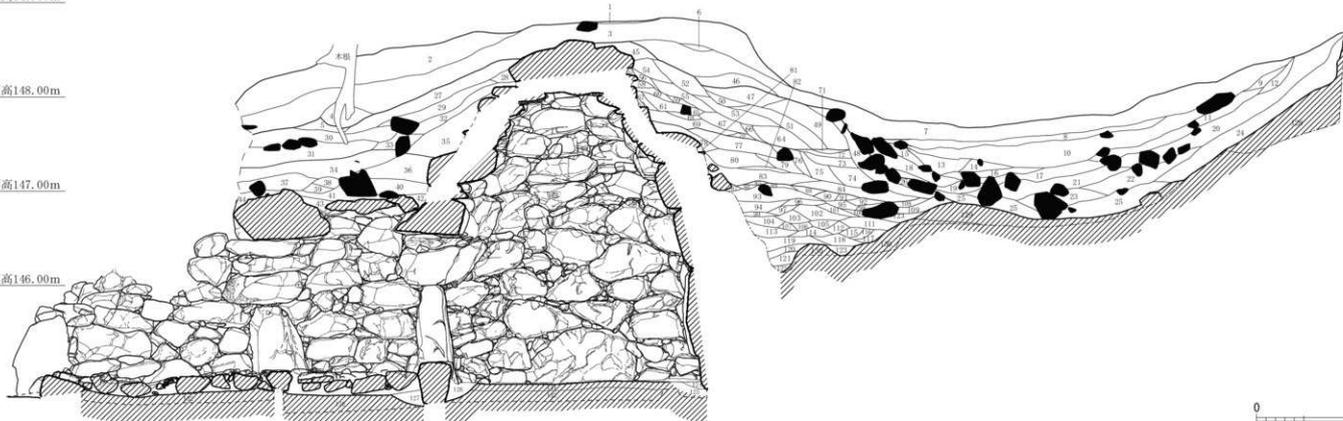


標高149.00m

標高148.00m

標高147.00m

標高146.00m



1. 黒色粘質土。しまりない。
2. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりない。
3. 明褐色粘質土。しまりない。
4. 暗褐色粘質土。しまりない。
5. 黄褐色粘質土。
6. 黒色粘質土。
7. 明黄褐色粘質土。
8. 黄褐色粘質土。
9. 明黄褐色粘質土。
10. 黒色+暗褐色粘質土。
11. 黄褐色粘質土。
12. 仁に、黄褐色粘質土。
13. 仁に、黄褐色粘質土。
14. 明褐色粘質土。
15. 黄褐色粘質土。
16. 黄褐色粘質土。
17. 仁に、黄褐色粘質土。
18. 黒色粘質土。
19. 黄褐色粘質土。
20. 暗褐色砂質土。
21. 仁に、黄褐色粘質土+砂質土。
22. 仁に、黄褐色粘質土。
23. 黄褐色粘質土。
24. 暗褐色砂質土。
25. 暗褐色粘質土。
26. 黄褐色粘質土。
27. 暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまりある。
28. 暗褐色粘質土。
29. 暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまりない。
30. 暗褐色粘質土。暗色粘質土ブロック多く含む。
31. 黄褐色粘質土。しまりある。
32. 暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまりある。
33. 暗褐色粘質土。しまりない。
34. 黒色粘質土。暗色粘質土ブロックを多く含む。しまりある。

35. 暗褐色粘質土。しまりある。
36. 暗褐色粘質土。しまりない。
37. 黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック多く含む。しまりない。
38. 黄褐色土+暗褐色粘質土。しまりある。
39. 暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
40. 暗褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。しまりある。
41. 黄褐色粘質土。しまりない。
42. 黒色粘質土。しまりある。
43. 暗褐色粘質土。しまりある。
44. 暗褐色粘質土。
45. 黄褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりない。
46. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。
47. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土。ブロック砂含む。
48. 暗褐色粘質土。しまりない。
49. 暗褐色粘質土。砂含む。
50. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。
51. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。砂含む。
52. 暗褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
53. 暗黄褐色粘質土。黒色粘質土ブロック含む。
54. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
55. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりある。
56. 黄褐色粘質土。しまりない。
57. 暗褐色粘質土。しまりない。
58. 黒色粘質土。しまりない。
59. 暗褐色粘質土。砂含む。
60. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
61. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりない。
62. 暗褐色粘質土。しまりない。
63. 暗褐色粘質土。しまりない。
64. 暗褐色粘質土。砂含む。
65. 暗褐色粘質土。しまりある。
66. 暗褐色粘質土。しまりある。
67. 暗褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりある。
68. 暗褐色粘質土。しまりない。

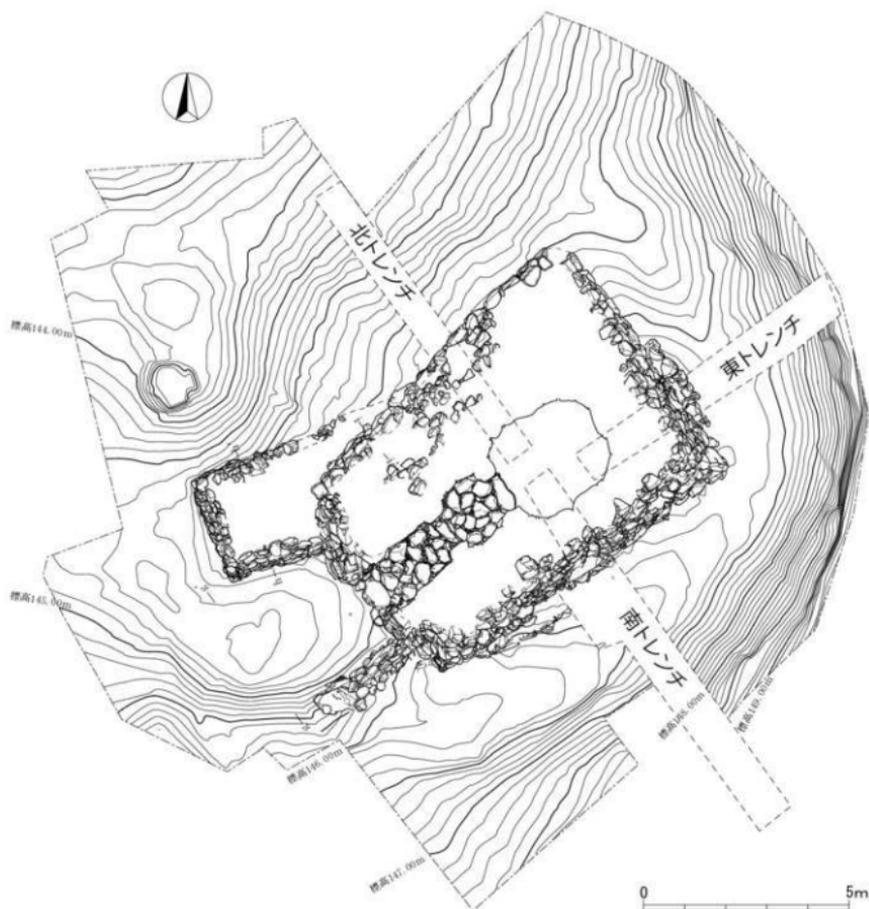
69. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
70. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりある。
71. 暗褐色粘質土。しまりある。
72. 暗黄褐色粘質土。しまりない。
73. 暗黄褐色粘質土。黒色土+暗褐色粘質土ブロック含む。
74. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。砂含む。しまりある。
75. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりある。
76. 暗褐色土+暗褐色土。しまりある。
77. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
78. 暗黄褐色粘質土。砂多く含む。しまりある。
79. 暗黄褐色粘質土+暗褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりない。
80. 暗黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりない。
81. 暗褐色粘質土。しまりない。
82. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりある。
83. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。
84. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
85. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
86. 暗褐色粘質土。しまりない。
87. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりない。
88. 暗褐色土+暗褐色粘質土。しまりない。
89. 暗褐色土+暗褐色粘質土。しまりある。
90. 暗褐色粘質土。しまりない。
91. 暗黄褐色粘質土。しまりない。
92. 暗黄褐色土+暗褐色粘質土。しまりある。
93. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
94. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
95. 暗黄褐色土+暗褐色粘質土。しまりある。
96. 暗黄褐色土+暗褐色粘質土。しまりない。
97. 暗褐色土+暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
98. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
99. 黄褐色粘質土。しまりある。
100. 暗褐色土+暗褐色粘質土。しまりない。

101. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
102. 暗黄褐色粘質土。暗褐色土+暗褐色粘質土ブロック含む。しまりある。
103. 暗黄褐色粘質土。暗色粘質土ブロック含む。しまりない。
104. 暗褐色土+暗褐色粘質土。黄褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
105. 黄褐色粘質土。しまりない。
106. 暗褐色粘質土。しまりない。
107. 暗褐色土+黄褐色粘質土。しまりない。
108. 暗褐色粘質土。しまりない。
109. 黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
110. 黄褐色粘質土。しまりある。
111. 暗黄褐色粘質土。暗褐色粘質土ブロック含む。しまりない。
112. 暗褐色土+暗黄褐色粘質土。しまりない。
113. 暗黄褐色粘質土。
114. 砂含む。しまりある。
115. 暗褐色粘質土。しまりある。
116. 黄褐色粘質土。しまりない。
117. 暗褐色土+暗褐色粘質土。しまりない。
118. 黄褐色粘質土。しまりある。
119. 黄褐色粘質土。しまりない。
120. 暗褐色粘質土+暗褐色粘質土。しまりない。
121. 黄褐色粘質土。しまりある。
122. 暗黄褐色粘質土。しまりある。
123. 暗褐色土+暗褐色粘質土。しまりない。
124. 黄褐色粘質土。しまりある。
125. 暗褐色粘質土。しまりない。
126. 暗褐色粘質土。しまりない。
127. 暗褐色粘質土。しまりない。
128. 暗褐色粘質土。
129. 黄褐色粘質土。
130. 暗褐色粘質土+暗褐色粘質土。しまりない。
131. 暗褐色粘質土。
132. 暗褐色粘質土。

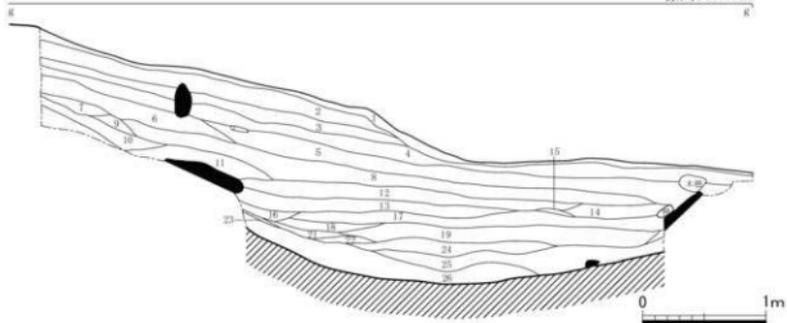
第 25 図 2号墳東西土層実測図 (1/40)

2層の厚い黒色の層が確認できる。地山は黄褐色粘質土、黒色粘質土である。墳形も1号墳と同様、方形を呈し、北西に前庭から突出部が北西に伸びる。長軸11.8 m、短軸7.3 m、標高の最大比高4.2 mを測る。

地山成形に際し、東部では標高146.7 m程度、南部では標高146.6 m程度、北部では標高145.75 m程度で平坦面を作成している。ただし、石列の外側、前庭南から石列東まで馬蹄形に溝状の窪みを作り出しており、周溝を意識している可能性もある。玄室から前庭までの石室はさらに

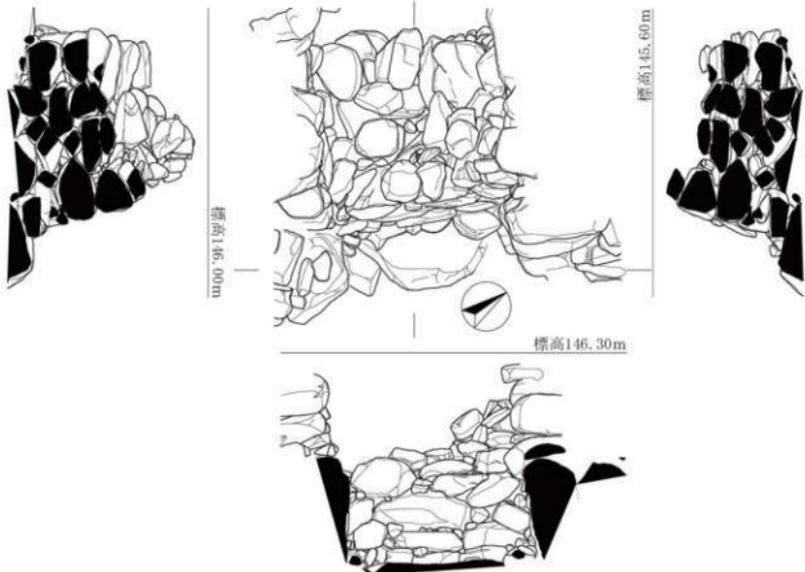


第26図 2号墳掘削後地形測量図 (1/120)



- |                       |                              |                          |
|-----------------------|------------------------------|--------------------------|
| 1. 明褐色粘質土。根多量に含む。     | 10. 黒色粘質土。                   | 19. 暗褐色・黄褐色砂質土。          |
| 2. 暗黄褐色粘質土。根含む。       | 11. 暗灰色粘質土。                  | 20. 暗褐色粘質土。              |
| 3. 黒色・暗灰色粘質土。         | 12. 暗褐色粘質土。                  | 21. 暗褐色粘質土。黄褐色土ブロック含む。   |
| 4. 暗褐色粘質土。            | 13. 暗黄褐色粘質土。                 | 22. 暗褐色・黄褐色粘質土。          |
| 5. 黒色・暗褐色粘質土。         | 14. 暗黄褐色砂質土。                 | 23. 暗褐色・黄褐色粘質土。          |
| 6. 暗灰色・黒色粘質土。         | 15. 黄褐色粘質土。                  | 24. 黄褐色砂質土。              |
| 7. 暗灰色粘質土。            | 16. 黒色粘質土。                   | 25. 黒色粘質土。暗灰色粘質土。        |
| 8. 黄褐色砂質土。暗褐色土ブロック含む。 | 17. 暗褐色粘質土。わずかに黄褐色粘質土ブロック含む。 | 26. 黒色粘質土。遺物含む。わずかにしりある。 |
| 9. 暗褐色・暗黄褐色粘質土。       | 18. 暗褐色粘質土。わずかに黄褐色粘質土ブロック含む。 |                          |

第27図 2号墳前庭土層実測図 (1/40)

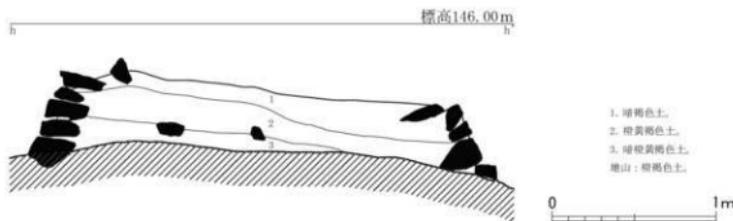


第28図 2号墳閉塞石実測図 (1/30)

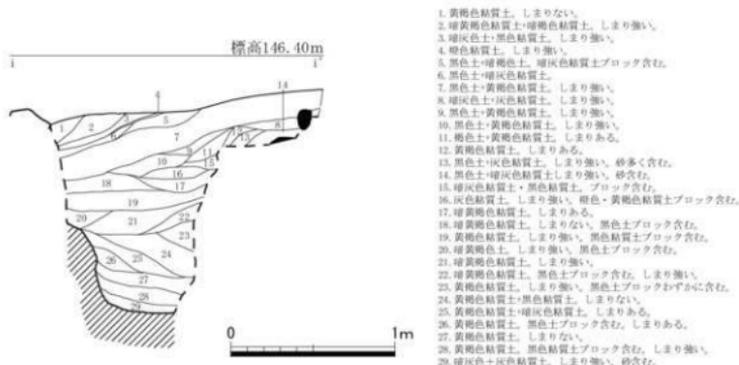
標高145 m程度まで地山を掘り下げ平坦面を作っている。前庭部の西側は緩やかに標高が上がる。石室の最下段の石は、平坦面をさらに掘削し下部を埋め込んでいる。1号墳と同様、下部の積土は盛土を固く締めているが、上層の土は柔らかく、版築は施されていない可能性が高い。確認できた確実な積土は石列の内側のみである。積土は玄室より東部では10～20 cm程度の暗灰色砂質土、黄褐色粘質土、黒色粘質土を主体とし、幅20～100 cmで積み重ねている。一方玄室より西部の石室上部の積土は、黒色粘質土、褐色粘質土を主体とし、2.9 m以上の広い幅で積み重ねている。積土は石列の下部にも認められ、平坦面を作りながら、石を重ね、石列の内側には裏込めの土を充填していることがわかる。

### 内部主体 (第20・21図)

西側に向かい開口する複式構造の横穴式石室である。玄室、前室、羨道、前庭からなる。羨道部の天井部が欠損しているが、その他の残存状況は良好である。石室の主軸方向は玄室・前室で概ねN-53.8°-E、羨道で概ねN-49.9°-Eと、前室と羨道で軸が屈曲する。奥壁から前庭部までの長さは9.6 m、床面の標高は玄室145 m前後、前室・羨道145.1 m前後である。石材の多くは花崗岩で、稀に片岩がみられる。角が丸みを帯びた角礫を主に使用している。



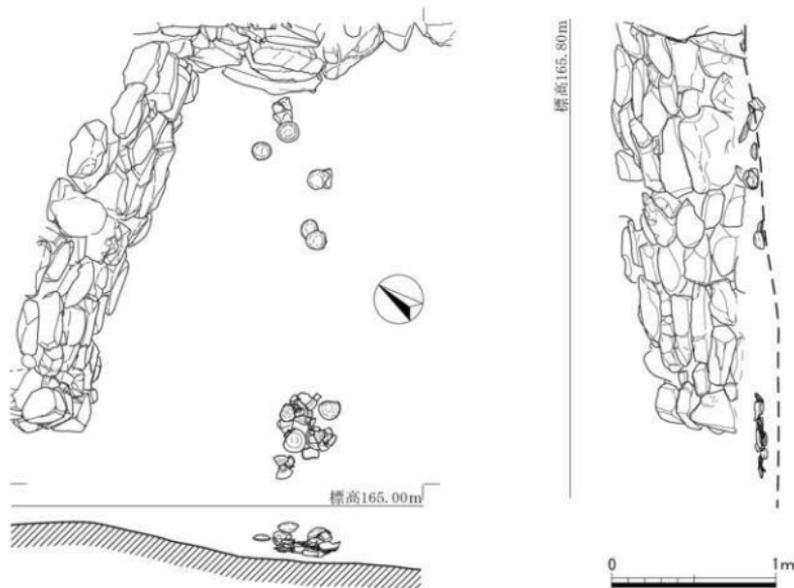
第29図 2号墳突出部土層実測図 (1/30)



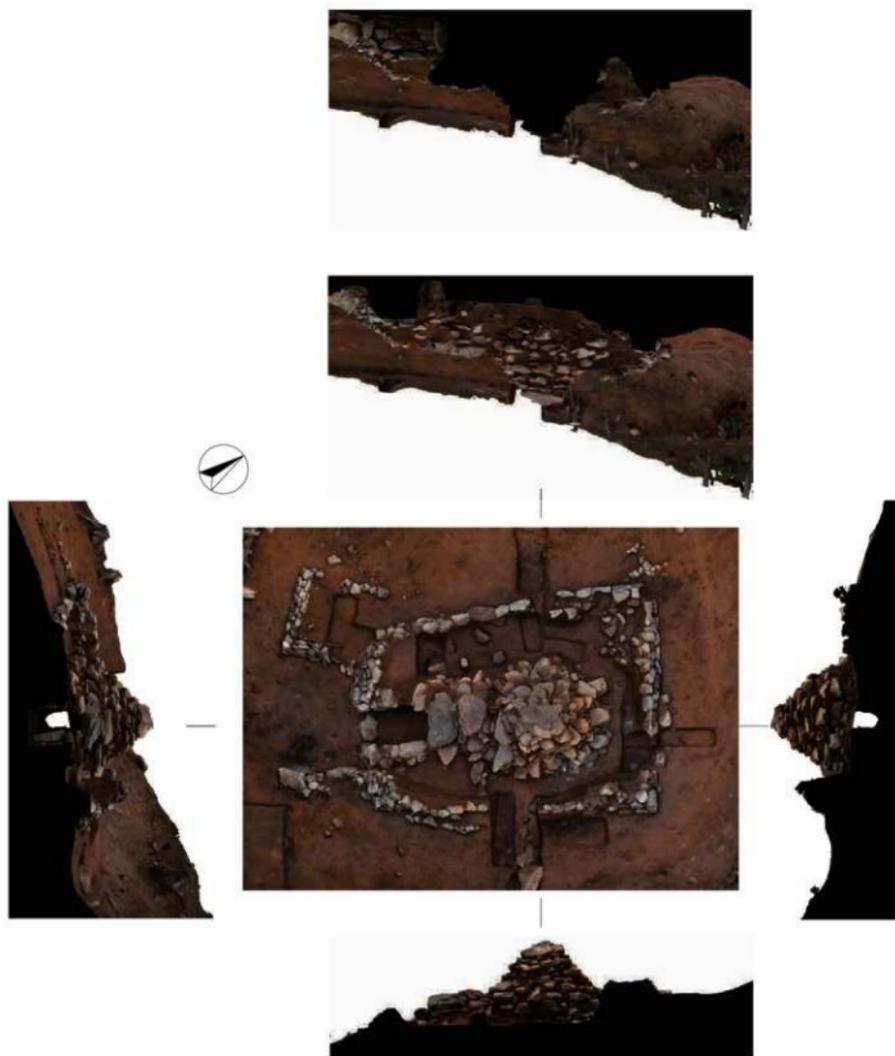
第30図 2号墳羨門北側土層実測図 (1/30)

玄室の規模は中軸線上で奥壁から玄門框石までの長さ2.6 m、奥壁幅1.1 m、底面から天井までの高さ3.1 m、奥壁の高さ1.2 m、袖石の内側幅は0.95 m、最大幅は2.5 mである。掘削前は地山面から30 cmほど埋土が堆積していた。側壁の石と石の間隙が多く、詰められていたと考えられる石や土が調査中も床に落ちていた。平面プランは隅丸方形に近い胴張りを呈し、幅50 cm、厚さ20 cm程度の石材を持ち送りで積み上げている。天井石は長軸1.3 m、幅1 mの石材を用いる。1号墳と同様に南北の側壁中央には比較的大きな石を据え、北側中央は高さ60 cm、幅1.2 m、南側中央は高さ80 cm、幅100 cmを測る。玄室には敷石が全く残っておらず地山が露出しており、遺物はほとんど出土していない。敷石や遺物は後世に取り去られたと考えられる。袖石は北側が高さ105 cm、幅4.2 cm、厚さ60 cm、南側が高さ115 cm、幅86 cm、厚さ35 cmを測る。

前室の規模は中軸線上で玄門框石と前門框石の間で1.4 m、最大幅1.5 m、敷石上面から天井石までの高さ1.8 m、前門袖石の内側幅は80 cmを測る。平面プランは円形に近い胴張りを呈し、側壁はわずかに持ち送る。天井石は1 m大の石材を用いる。玄門楣石と前門楣石はの底面は標高146.5 m程度にほぼ水平に据えられる。北側壁は $9^\circ$ 、南側壁は $20^\circ$ 程度内傾し、南側のほうの傾きが著しい。袖石も北側はほぼ垂直に据えられているのに対し、南側は $7^\circ$ 程度内傾している。南側の袖石は上部の石材とかみ合っていないため、後世に南から力が加わり傾いた可能性がある。袖石は北側が高さ70 cm、幅65 cm、南側が高さ90 cm、幅60 cmを測る。袖石の上部は厚さ15～35 cm



第31図 2号墳遺物出土状況実測図 (1/30)



第 32 图 2 号墳石室外面画像 (1/150)



第33图 2号填土内部列石画像(1/50)

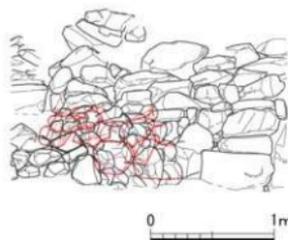
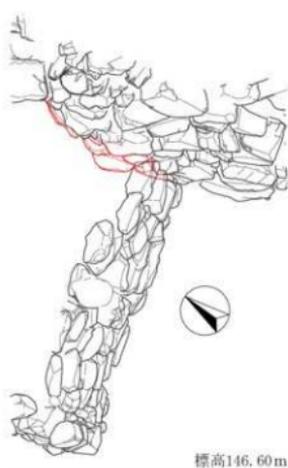
程度の扁平な石材を2・3段積み上げる。敷石は1段のみ確認でき、長さ30～50cm程度の扁平な並円礫を主に使用し、隙間に小円礫を詰めている。南西部隅からは18点の鉄鏝がまとめて出土した。

羨道は天井部を欠損する。側壁は4・5段程度が残存し、高さは北側壁1.3m、南側壁1.2mを測る。前門框石から羨門框石までの長さは185cm、最大幅125cm、羨門袖石の内側幅は1mを測る。袖石は北側が高さ70cm、幅65cm、南側が高さ85cm、幅65cmを測る。敷石は30～50大の円礫を主に敷き詰めている。袖石は北側が高さ70cm、幅65cm、南側が高さ85cm、幅65cmを測る。羨門付近には閉塞石が一部残存しており、15～40cm大の円礫を4段程度、長さ1.2m、高さ75cm程度が確認できた。閉塞石の東部と上部は抜き取られており、調査前は抜き取られた穴から古墳内部へ入ることができた。

前庭では北側壁が羨門袖石から1m北へ開き、西へ2.4m延び、南側壁が羨門袖石から0.7m南へ開き、西へ2.6m延びる。羨門框石から西へ2.2m地点が標高14.55mで最も低くなり、わずかに窪み状になる。墓道は北西方向へ延びると考えられる。1号墳同様、前庭北半ではほぼ完形の須恵器の蓋や坏等の遺物が床面直上に確認された。遺物の下には円礫が据えられていた。南側壁は70～100cm大の比較的大きな石材を立てて用いており、北側壁が高さ70cm程度なのに対して、南側壁は高さ1m程度あり、土留めを意識している可能性もある。南側壁の傾斜角は75°程度、北側壁の傾斜角は65°程度である。

#### 突出部（第29図）

1号墳と同様、前庭部の北側に1～3段の石列を廻らし、方形に区画された空間である。標高は南東から北西へ緩やかに下がる。出土遺物の多くは突出部の上部、またはその周辺で出土しており、突出部上面から出土した遺物とその周辺で出土した遺物が接合関係となる場合が多い。突出部の上部が祭祀空間として利用されていたと考えられる。主軸方位はN-79°-Eである。石列内は水平に埋土が堆積している。羨門から西へ延びる側壁の延長が埋土の中へ延び、上部で見えている列石の下部にも石積みが見られる。突出部は後に取り付けられた可能性もある。突出部の北西側は窪み状になり、その中心に巨礫がある。西辺は3.5m、北辺は1.7mの長さを測る。石列の内側は周囲より50～80cm高い。1号墳と異なり、突出部の中央に巨礫はない。



第34図 2号墳突出部内部石列実測図(1/40)

### 外部列石（第22・23図）

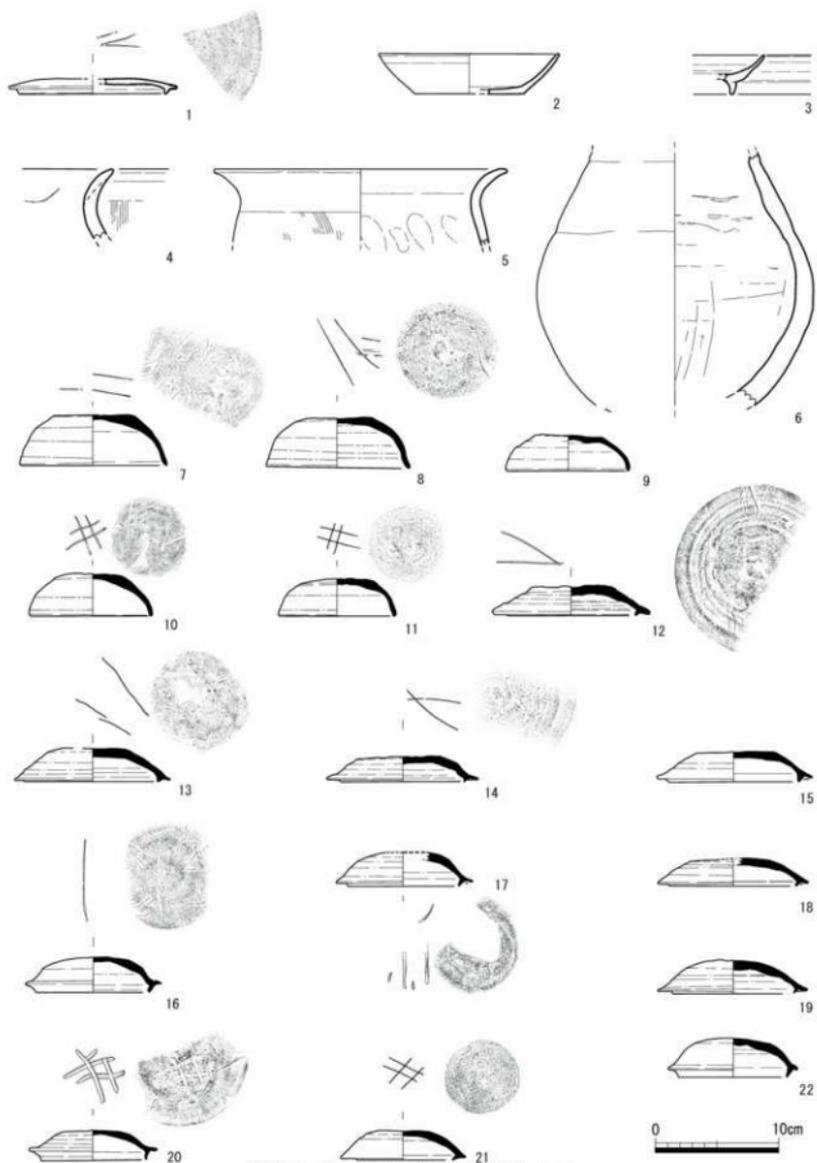
1号墳と同様、墳丘の周囲と内部に列石が巡る。外部の石列主軸方向は石室の主軸方向とほぼ同じで、標高は南東から北西に下がる。北辺、東辺、南辺、西辺の4辺が台形状を呈す。北辺8.5m、東辺7m、南辺8.8m、西辺5.4mを測る。西辺は前庭東部の上部あたり、多くが崩落していると考えられる。玄室中心部から各辺下段までの距離は、北辺3.7m、東辺3.8m、南辺2.8m、西辺5.7mである。石積みへの傾きは残存状況が良好な箇所では北辺60°、東辺55°、南辺56°、西辺55°である。北辺は上部の石材のほとんどが崩落しており、1・2段程度残存する箇所が多いが、中央部付近では部分的に10段近く石材が残る箇所もある。また北辺西部では、中段の石列が崩落し失われているが、上部に5段程度石材が積重なっている。北辺の最高位は標高148.05mでほぼ墳頂付近にあたるため、北辺は墳頂付近まで石列が積み重なっていた可能性がある。東辺は南程石積みが残るが、南辺には9段程度の石積みが残る。また、積土の内部にも部分的に3箇所の石列が確認できた。いずれも玄室の周囲を取り囲むように巡るが、高さについてはまばらである。

### 3. 出土遺物（第35～40図、図版21～25）

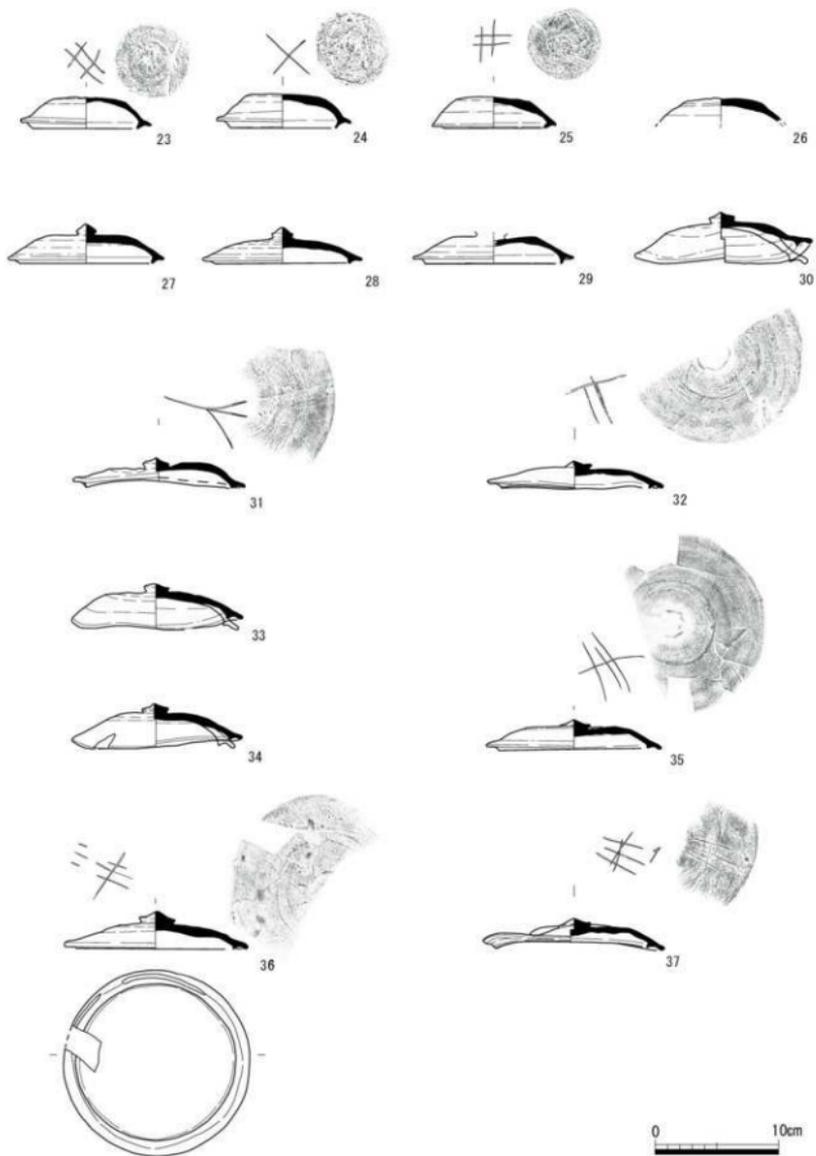
出土遺物のほとんどが突出部周辺で出土しているが、鉄製の多くは前室床面から出土している。主な遺物は土師器、須恵器、金属器、縄文土器、弥生土器、石器、近代の磁器である。

1は土師器の蓋である。口縁部にかえしを有し、外面にヘラ記号を有す。2・3は土師器の坏である。3は高台を有す。4～6は土師器の甕である。4・6は内面に粘土のつなぎ目が残っており、特に6は顕著である。6は内面にも粘土のつなぎ目残り、胴部は膨らみ、頸部は狭まる。7～37は須恵器の蓋で、半数以上の19点が外面にヘラ記号を有す。12～37は口縁部にかえしを有し、27～37はつまみを有す。30～34・37はひずみが著しい。32・36は見受け部に坏身の口縁部の一部が癒着した状態である。38～56は須恵器の坏で、半数以上の13点にヘラ記号を有す。47～56は高台を有す。48・49・52・55・56はひずみが著しい。48は底部が欠ける。47は口縁部の一部が欠けており、36と接合する。自然釉によって蓋と坏身が癒着しており、焼成時に36と47は重ねられていたと考えられる。57～62・65は須恵器の壺で60～62はヘラ記号を有す。57は底部のみで平瓶や小壺の可能性もある。58は口縁部で沈線が施される。59は底部が内側に膨らむ。65は胴部に2条の波状文が描かれる。63はひずみがあり口縁部から側面まで短い。須恵器の横瓶と考えられる。64は須恵器の平瓶である。66は須恵器の甕である。67は須恵器の鉢であり、底部にヘラ記号を有す。68は縄文土器、69は弥生土器の底部である。70・71は近代の磁器である。72～90は鉄製である。72は圭頭形、73は有茎三角形で鐵身に関を有す。76は方頭形、または圭頭形で透かしを有す。74～81は鑿形で77・81以外は頸部に関を有す。82～90は鐵身部や茎が欠けているが、82～85は茎部に関を有す。91～95は近世以降の遺物で、91は毛抜き、92は煙管の吸口、93～95は寛永通宝である。

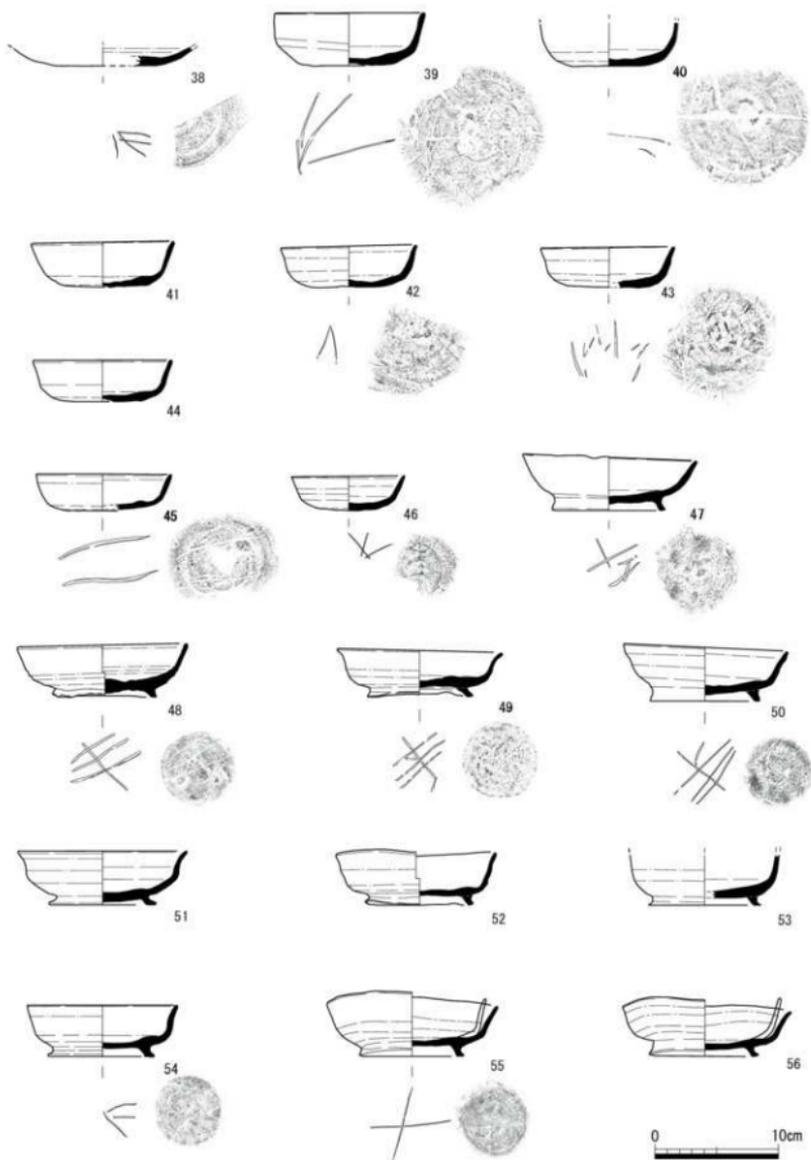
その他の遺物の詳細については出土遺物観察表を参照されたい。



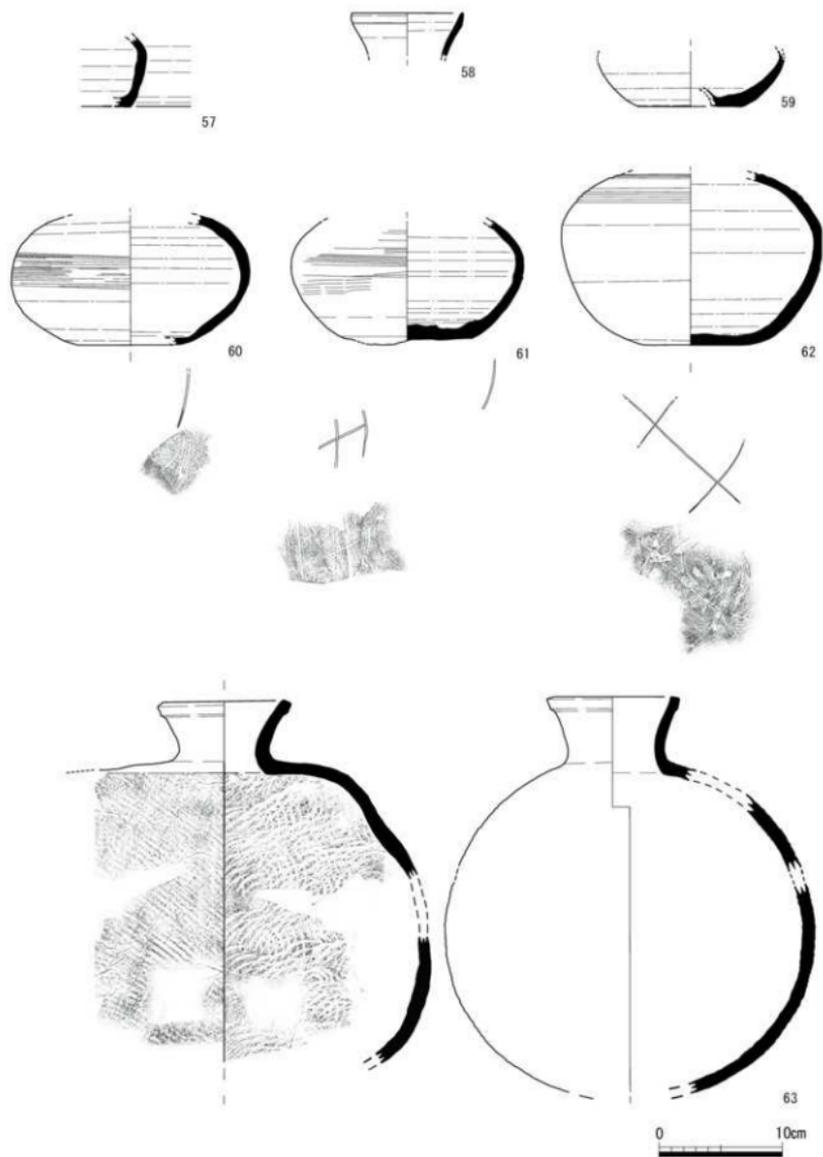
第35图 第2次調査出土遺物実測図①(1/4)



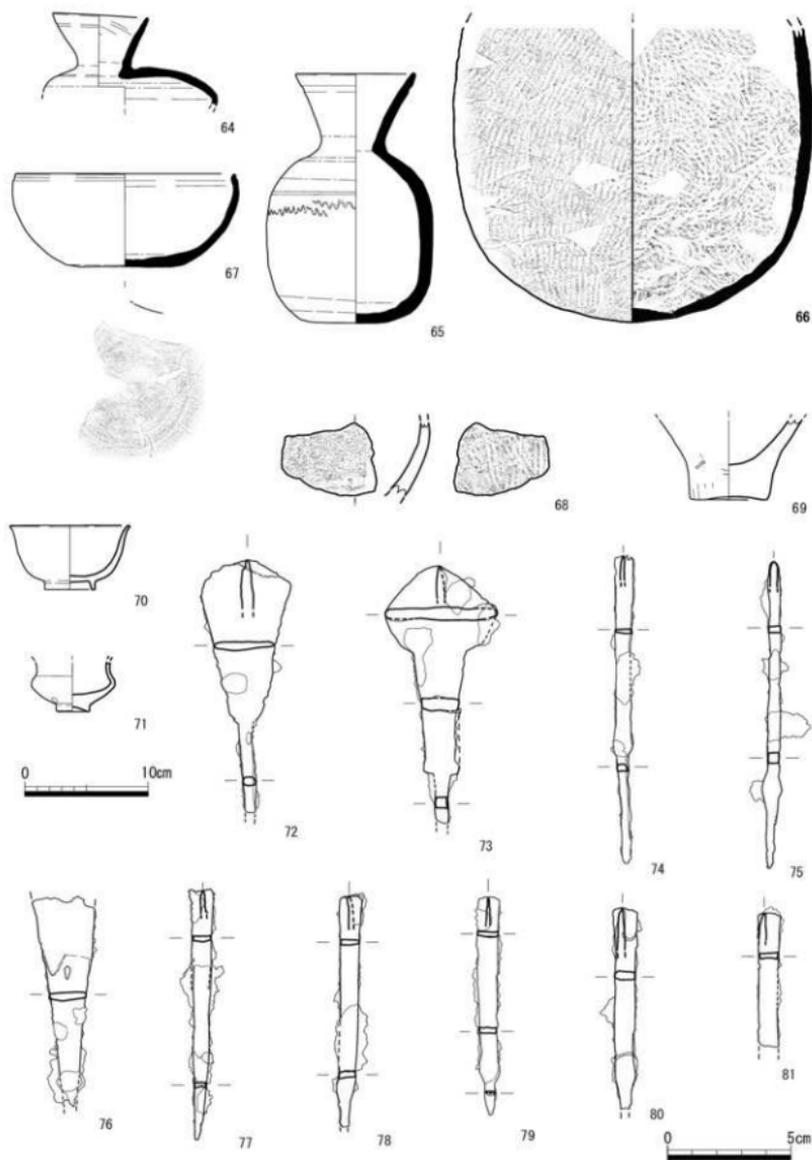
第36图 第2次調査出土遺物実測図②(1/4)



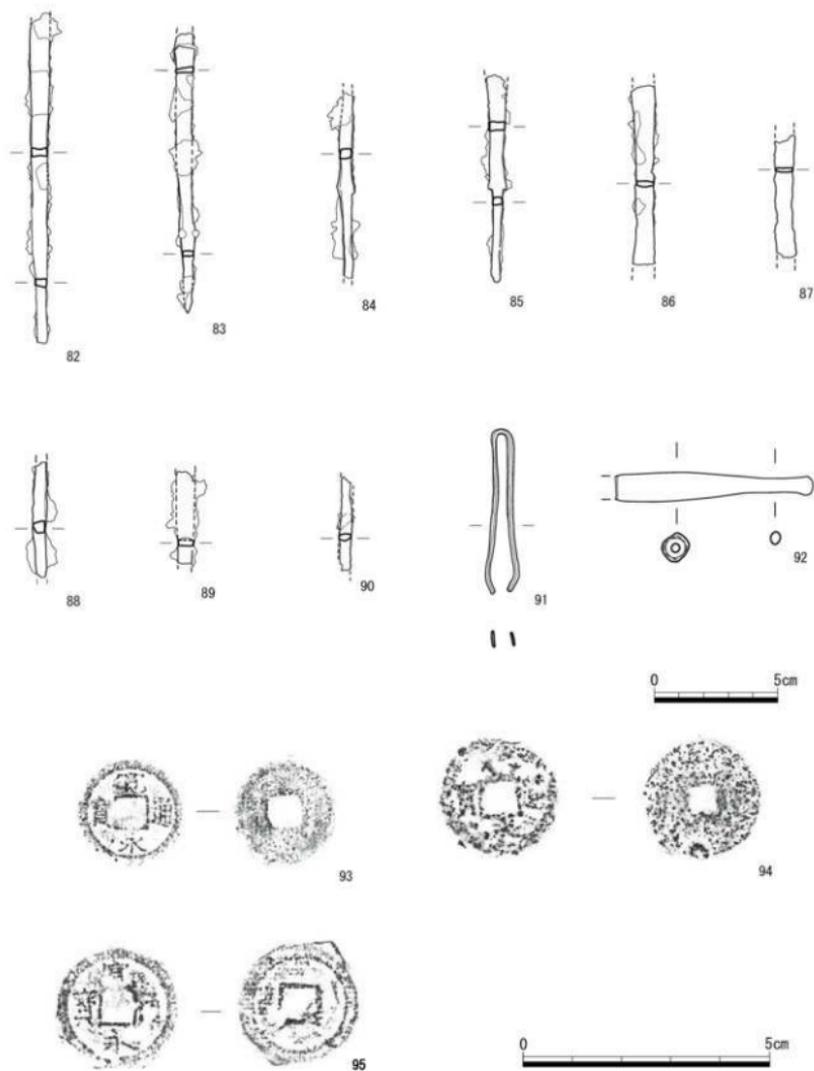
第37图 第2次調査出土遺物実測図③ (1/4)



第38図 第2次調査出土遺物実測図①(1/4)



第 39 图 第 2 次調査出土遺物実測図⑤ (1/4、1/2)



第40図 第2次調査出土遺物実測図⑥ (1/2、1/1)



第4表 第2次調査出土遺物観察表②

| 遺物<br>№ | 出土遺物     | 場所  | 層位 | 数量     |        |        |       | 種類    |         |         |         | 出土      | 備考                  | 遺物登録番号 |          |             |
|---------|----------|-----|----|--------|--------|--------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|---------------------|--------|----------|-------------|
|         |          |     |    | 台帳(遺品) | 遺品(種類) | 総数(遺品) | 西表    | 西表    | 西表      | 西表      |         |         |                     |        |          |             |
| 40      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.2   | 13.1   | 4.9    | 5.2   | 4.9   | 磁       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 磁器類、磁器片を含む。破片。      | →下記写番号 | 西表 破片多く出 | 30110000014 |
| 46      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.3   | —      | 6.9    | 6.2   | 6.9   | 瓦       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 破片。                 | →下記写番号 | —        | 30110000013 |
| 51      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.40  | —      | 4.3    | 4.4   | —     | 磁       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 磁器類、磁器片を含む。         | —      | —        | 30110000011 |
| 52      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.9   | —      | 6.4    | 6.9   | 4.9   | 瓦       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 磁器類、磁器片を含む。破片。      | —      | —        | 30110000012 |
| 53      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | —      | 18.20  | 14.31  | 15.01 | 14.31 | 磁       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | —      | —        | 30110000011 |
| 54      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.9   | —      | 6.3    | 6.3   | —     | 瓦・瓦白    | 瓦・瓦白    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000045 |
| 55      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 12.1   | 13.40  | 6.4    | 14.2  | 4.3   | 瓦・瓦黄    | 瓦・瓦黄    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ・ツエ | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | →下記写番号 | —        | 30110000052 |
| 56      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.6   | —      | 6.9    | 6.6   | —     | 瓦・瓦     | 瓦・瓦     | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000046 |
| 57      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | —      | —      | 16.40  | 16.3  | —     | 瓦白・瓦    | 瓦白・瓦    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼1・2個あり。黒色砂焼 | →下記写番号 | —        | 30110000056 |
| 58      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | 18.6   | —      | 6.5    | 6.5   | —     | 瓦焼・瓦黄   | 瓦焼・瓦黄   | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | →下記写番号 | —        | 30110000067 |
| 59      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 18.30  | 14.31  | 14.31 | —     | 瓦・瓦黄    | 瓦・瓦黄    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000029 |
| 61      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 6.2    | 16.40  | 16.4  | —     | 瓦焼・瓦黄   | 瓦焼・瓦黄   | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000029 |
| 61      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 19.7   | 16.40  | 16.4  | —     | 瓦       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼            | →下記写番号 | —        | 30110000071 |
| 62      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 16.6   | 14.9   | 14.9  | —     | 瓦・焼黄焼   | 瓦・焼黄焼   | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000059 |
| 63      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | 16.7   | —      | 16.3   | 16.3  | —     | 瓦白・焼・瓦  | 瓦白・焼・瓦  | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000076 |
| 64      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 17.40  | —      | 17.30  | 17.3  | —     | 瓦・瓦白    | 瓦・瓦白    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000049 |
| 65      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | 8.7    | 17.50  | 16.3   | 16.3  | —     | 瓦・瓦白    | 瓦・瓦白    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類を含む。             | →下記写番号 | —        | 30110000056 |
| 67      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 7      | 16.90  | 16.9  | —     | 瓦白      | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、磁器片を含む。         | →下記写番号 | —        | 30110000079 |
| 67      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | 17.40  | 17.30  | 7.6    | 7.6   | —     | 瓦白・焼・瓦  | 瓦白・焼・瓦  | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | →下記写番号 | —        | 30110000057 |
| 68      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 15.90  | 16.3   | 16.3  | —     | 瓦白・焼    | 瓦白・焼    | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | →下記写番号 | —        | 30110000084 |
| 69      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 遺  | —      | 6.2    | 6.5    | 6.5   | —     | 瓦白・焼・瓦  | 瓦白・焼・瓦  | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼・黒色砂焼       | →下記写番号 | —        | 30110000063 |
| 70      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 遺  | 8.8    | 4.9    | 5.3    | 5.3   | —     | 瓦焼・瓦白・焼 | 瓦焼・瓦白・焼 | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類、白色砂焼1・2個あり      | →下記写番号 | —        | 30110000013 |
| 71      | 土器破片(磁器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | —      | 5.9    | 6.1    | —     | —     | 瓦       | 瓦       | 磁器ツエ・ツエ | 磁器ツエ    | 磁器類。                | →下記写番号 | —        | 30110000032 |
| 72      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.20  | 3.7    | 4.3    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000084 |
| 73      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.50  | 4.9    | 5.3    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000096 |
| 74      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.4   | 1.3    | 6.4    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000078 |
| 75      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.5   | 2.4    | 6.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000091 |
| 76      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 16.40  | 3.6    | 4.4    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000062 |
| 77      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 16.7   | 1.7    | 6.9    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000092 |
| 78      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 16.50  | 1.4    | 4.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000064 |
| 79      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 8.9    | 1.1    | 6.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000065 |
| 80      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 16.30  | 1.7    | 4.3    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000047 |
| 81      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 16.70  | 1      | 4.9    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000089 |
| 82      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.30  | 1.8    | 6.4    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000080 |
| 83      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 11.40  | 1.4    | 4.2    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000082 |
| 84      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 17.40  | 1.2    | 2.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000096 |
| 85      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 116.40 | 1.9    | 4.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000088 |
| 86      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 17.30  | 1.9    | 6.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000086 |
| 87      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 15.90  | 6.9    | 6.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000091 |
| 88      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 14.70  | 1.9    | 6.9    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000090 |
| 88      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.80  | 1.6    | 6.6    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000067 |
| 89      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 13.60  | 6.7    | 6.9    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000092 |
| 91      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 浮舟 | 8.7    | 1.4    | 6.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000076 |
| 92      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | 11.90  | 1.7    | 4.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000077 |
| 93      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | 3.6    | 3.7    | 6.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000074 |
| 94      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | 3.45   | 2.4    | 6.2    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000073 |
| 95      | 土器破片(土器) | 埋蔵品 | 埋蔵 | 3.6    | 2.3    | 6.1    | —     | —     | —       | —       | —       | —       | —                   | —      | —        | 30110000075 |

## V. 総括

### 1. 山王古墳群の築造時期について

従来、山王古墳群は山王西筋古墳として2号墳の存在のみが知られていたが、古墳群を形成することは知られていなかった。試掘調査や踏査の結果、同一尾根上に7基の古墳が確認され、第1・2次調査で1・2・3号墳の3基の古墳の発掘調査を実施した。

3号墳については遺物の出土がほとんどなく、築造時期の詳細は不明であるが、1号墳の裾に位置するため、1号墳築造後に作られた可能性が高い。1・2号墳の築造時期については、石室が複式構造で玄室・前室の平面プランが胴張り、またはほぼ円形に近い形のため、古墳時代後期から終末期の築造と考えられる。ただし、石室内から出土した遺物は鉄製品や、土器の細片のみであり、石室床面直上からの出土遺物がなく、詳細な築造時期については困難である。遺物のほとんどは前庭や突出部周辺からの出土であり、7世紀初頭前後に属する資料が主体となる。一方で、1号墳では、45や48のように6世紀後半に属すると考えられる須恵器坏身も見られるため、1号墳の築造時期は6世紀後半前後にあたりと考えられる。2号墳は1号墳と墳丘・石室の平面形・主軸方位が近似しており、設計規格の共用していたと想定されるため、2基は近い時期に築造されたと考えられる。琴平神社周辺にある4基の古墳については未調査のため築造時期は不明であるが、1・2号墳に比べ小型で、1・2号墳より新しい可能性がある。

### 2. 外部列石・墳形について

1・2号墳共に、墳丘の基底部より上位では、積土が互層状に積固められておらず、締まりがない状態で堆積している。1号墳の北トレンチ、北西トレンチの外部列石は1段のみしかなく、南辺や東辺では3・4段、北トレンチと北西トレンチ間では4段の石積みが確認できているため、北辺列石上位の多くは崩落している可能性がある。北辺では、外部の列石の上位に厚く堆積土が重なるが、発掘調査前は墳頂部を駐車場のよう造成してあったことから、列石より上位の堆積土は造成時に削平された上位の積土が北側に流れ、厚く堆積している可能性がある。外周を巡る列石の外部には、積土と断定できる堆積は下段に確認できるのみで、多くは自然堆積であると考えられる。積土の流出が少ないと考えられる斜面上方の南辺においても同様な状況であり、少なくとも列石の上部は築造当時は露出しており、外護列石の役割を果たしていた可能性がある。また、同様な石の積み方をしている突出部は周囲が自然堆積のみであるため、外部に列石が見えた状態であることや、外部列石の隅においては稜線が揃うように石を積み、見栄えを良くしていることから列石を見せることを意識していると想定される。そのため、1・2号墳の平面形は外部列石に沿った方墳であると考えられる。積土内部の列石については1号墳では石室主軸と異なる軸方向であり、2号墳では玄室の周囲を巡ることから、外周の列石とは役割が異なる内護列石と考えられる。

耳納北麓で列石が確認できる古墳については、益生田古墳群第4次調査の報告でまとめられてい

る。益生田古墳群A支群・清長橋古墳群・西館古墳・善院古墳群・山本西屋敷古墳群は、前庭から墳裾にかけて列石が続く。また、西館古墳、寺徳古墳、善院古墳1号墳ではトレンチ内で石室の周りに積石が施される。トレンチ内での確認であるため、平面形は不明である。益生田古墳群83号墳は円形、85号墳は楕円形、87号墳は方形、88号墳は円形に石室外部に列石が巡る。また、田主丸大塚古墳においても列石が確認されている。寺徳古墳、田主丸大塚古墳では内外の2列の列石が確認されている。内部の石積みが高く積まれ、田主丸大塚古墳では、内部列石の下部と外部列石との間に積土が確認できるが、内部列石の上位の外側には積土が確認できないため、石積みが露出していた可能性がある。他の一部の古墳においても石列が露出しているもの、内護列石のものが入り乱れている可能性がある。

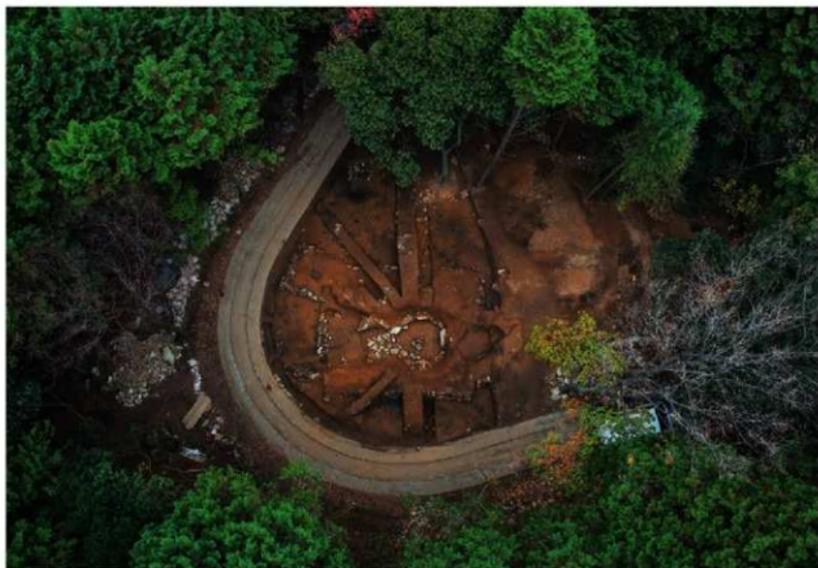
また、これまで田主丸町にある古墳で突出部を有する古墳は確認されていなかったが、突出部を有する可能性がある古墳も確認されている。益生田古墳群76号墳は西に開口部を持つ複式構造の石室で、前庭部が西部へ延び、南側に石列で囲まれた空間が確認できる。未調査のため詳細は不明である。87号墳は前庭の西端部を検出していないが、突出部を有している可能性がある。鳥越古墳群1号墳は未調査であるが、墳丘の平面形が山王古墳群2号墳と近いと考えられる。現状で墳丘が隅丸方形を呈し、突出状の高まりや石もわずかに確認できる。周辺では朝倉市柿原古墳群D地区1号墳は方墳で、積土の外部に上段、下段の2段に石列を巡らせ、前庭の左右に突出部を有す。他にもD地区3・5・8・10・11・15号墳は突出部を有しており、内護列石、または外護列石が巡る。柿原古墳群の突出部は石室主軸とほぼ平行しており、突出部が石室主軸からハの字状に開く古墳は益生田古墳群から山王古墳群にかけての特徴の可能性がある。

### 3. 山王古墳群1・2号墳の位置づけについて

前述したとおり、山王古墳群1・2号墳は6世紀後半頃に築造された突出部を有する方墳と考えられるが、耳納北麓で同時期の方墳は今まで確認されていなかった。下原幸裕氏によると福岡県では後期方墳の大半が群集墳に築かれ、筑紫地域に多いとされている。全国的にみると方墳は6世紀後葉に増加し、段築、列石、周溝、周堤といった様々な要素を持ち合わせている。また、この時期の方墳の墳丘規模は20m以下のものがほとんどであるため（下原幸裕2003「後・終末期方墳の検討 九州・近畿地域『古文化叢書』49九州古文化研究会）、1・2号墳がこの時期に築造されたとしても不自然ではない。益生田古墳でも石列が楕円形、方形に巡る古墳が確認されており、今後耳納北麓で同様な形態の事例が増える可能性もある。

1・2号墳は斜面中腹に築造され、1号墳と2号墳の間もゆとりがあり、斜面周囲で確認されている古墳は3号墳だけである。斜面下位には比較的平坦な地形もみられるが、尾根頂上付近にある4基や対岸の鳥越古墳群と1・2号墳とは距離が離れている。1・2号墳は群集墳の中では比較的上位な存在が被葬者であったと考えられる。斜面下から望む1・2号墳は、斜面の傾斜の分、実際より大きく見せ、石列も含めて見栄えを意識していた可能性がある。

# 写真図版



(1) 山王古墳群第1次調査地全景(南上空から)



(2) 山王古墳群1号墳全景(南上空から)



(1) 1号墳掘削前状況(西から)



(2) 1号掘削前状況(北から)



(3) 1号墳掘削前墳頂付近(西から)



(4) 1号墳試掘時確認石列状況(北から)



(5) 1号墳前庭土層堆積状況(北から)



(6) 1号墳北部土層堆積状況①(東から)



(7) 1号墳北部土層堆積状況②(東から)



(8) 1号墳北部土層堆積状況③(東から)



(1) 1号墳南部土層堆積状況①(東から)



(2) 1号墳東トレンチ掘削状況(東から)



(3) 1号墳東トレンチ土層堆積状況①(北から)



(4) 1号墳東トレンチ土層堆積状況②(北から)



(5) 1号墳東トレンチ土層堆積状況③(北から)



(6) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況①(西から)



(7) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況②(西から)



(8) 1号墳北西トレンチ土層堆積状況③(西から)



(1) 1号墳東端攪乱土層堆積状況(北から)



(2) 1号墳突出部西部土層堆積状況(南から)



(3) 1号墳突出部東部土層堆積状況(南から)



(4) 1号墳突出部南北土層堆積状況(南から)



(5) 1号墳前庭南土層堆積状況(西から)



(6) 道路露頭自然堆積状況(北から)



(7) 1号墳前庭遺物出土状況(南西から)



(8) 1号墳石室検出状況(南から)



(1) 1号墳前室敷石検出状況(西から)



(2) 1号墳前室北側壁(南西から)



(3) 1号墳前室北側壁加工痕(南から)



(4) 1号墳閉塞石検出状況①(西から)



(5) 1号墳閉塞石検出状況②(東から)



(6) 1号墳前庭礎集中部(西から)



(7) 1号墳全景(西から)



(8) 1号墳突出部検出状況(西から)



(1) 1号墳北西部列石検出状況①(北西から)



(2) 1号墳北西部列石検出状況②(北から)



(3) 1号墳北中央部列石検出状況(北から)



(4) 1号墳北東部列石検出状況①(北から)



(5) 1号墳北東部列石検出状況②(北から)



(6) 1号墳北東部列石検出状況③(北東から)



(7) 1号墳南東部列石検出状況①(東から)



(8) 1号墳南東部列石検出状況②(南東から)



(1) 1号墳南部列石検出状況(南から)



(2) 1号墳北西部積土内部列石検出状況(北から)



(3) 1号墳南部積土内部列石検出状況(東から)



(4) 1号墳北部石材崩落状況(西から)



(5) 3号墳検出状況(北から)



(6) 3号墳敷石検出状況(南から)



(7) 3号完掘状況(南から)



(8) 現地説明会風景(東から)



第1次調査出土遺物写真①



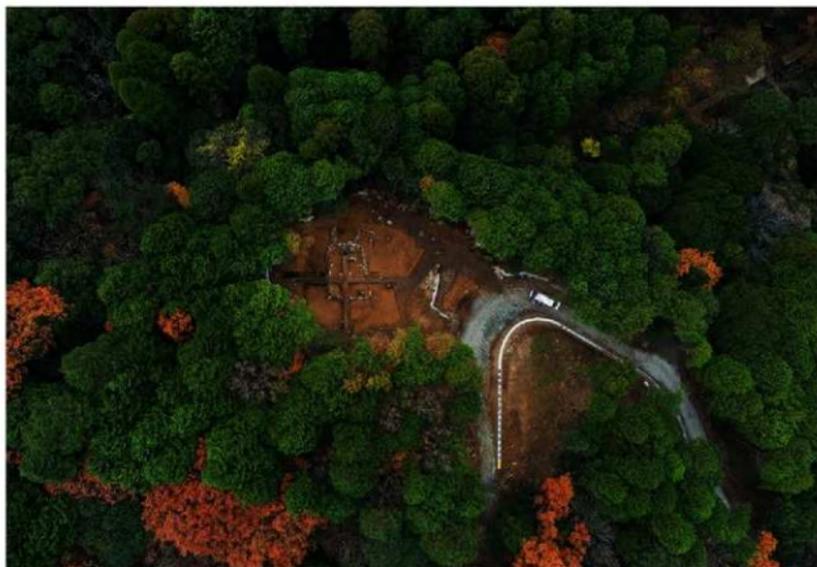
第1次調査出土遺物写真②



第1次調査出土遺物写真③



第1次調査出土遺物写真④



(1) 山王古墳群第1・2次調査地全景(東上空から)



(2) 2号墳全景①(北上空から)



(1) 2号墳全景② (西から)



(2) 2号墳全景③ (北から)



(1) 石垣川周辺の加工痕ある花崗岩(南から)



(2) 2号墳調査前状況①(西から)



(3) 2号墳調査前状況②(東から)



(4) 2号墳前にある祠①(東から)



(5) 2号墳前にある祠②(南から)



(6) 2号墳北部土層堆積状況①(西から)



(7) 2号墳北部土層堆積状況②(西から)



(8) 2号墳北部土層堆積状況③(西から)



(1) 2号墳北部土層堆積状況④(西から)



(2) 2号墳東部土層堆積状況①(南から)



(3) 2号墳東部土層堆積状況②(南から)



(4) 2号墳東部土層堆積状況③(南から)



(5) 2号墳南部土層堆積状況①(西から)



(6) 2号墳南部土層堆積状況②(西から)



(7) 2号墳南部土層堆積状況③(西から)



(8) 2号墳西部土層堆積状況(南から)



(1) 2号墳前庭土層堆積状況(東から)



(3) 2号墳玄室奥壁(西から)



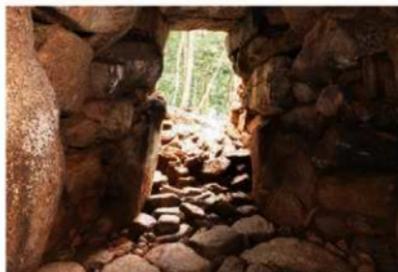
(2) 2号墳玄室奥壁上部(西から)



(4) 2号墳玄室天井(西下から)



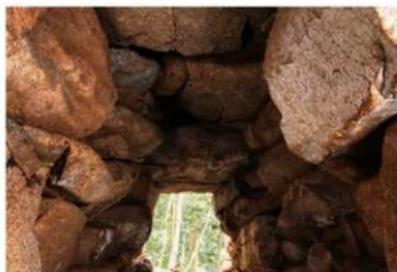
(5) 2号墳玄室南側壁(北から)



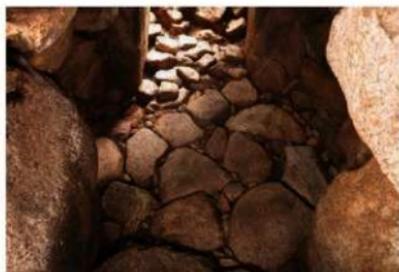
(6) 2号墳玄室北側壁(南から)



(7) 2号墳玄室から前室をのぞむ(東から)



(1) 2号墳前室上部(東から)



(2) 2号墳前室敷石検出状況(東から)



(3) 2号墳羨道から前室をのぞむ(西から)



(4) 2号墳羨道敷石検出状況(西から)



(5) 2号墳羨道検出状況①(西から)



(6) 2号墳閉塞石検出状況②(東上から)



(7) 2号墳閉塞石検出状況③(東から)



(8) 2号墳前室鉄継出土状況(北東から)



(1) 2号墳前庭遺物出土状況①(西から)



(2) 2号墳前庭遺物出土状況②(西から)



(3) 2号墳前庭遺物出土状況③(西から)



(4) 2号墳前庭遺物出土状況④(西から)



(5) 2号墳石列検出状況①(北西から)



(6) 2号墳石列検出状況②(北から)



(7) 2号墳石列検出状況③(東から)



(8) 2号墳石列検出状況④(南東から)



(1) 2号墳石列検出状況⑤(南から)



(2) 2号墳開口部(南西から)



(3) 2号墳石室外部検出状況①(西から)



(4) 2号墳石室外部検出状況②(北から)



(5) 2号墳石室外部検出状況③(南から)



(6) 2号墳石室外部検出状況④(南西から)



(7) 2号墳石室掘方掘削状況(南から)



(8) 2号墳玄室床面土層堆積状況①(北から)



(1) 2号墳玄室床面土層堆積状況②(西から)



(2) 2号墳前室床面土層堆積状況①(西から)



(3) 2号墳前室床面土層堆積状況②(南から)



(4) 2号墳羨道床面土層堆積状況(南から)



(5) 2号墳前庭床面土層堆積状況(南から)



(6) 2号墳西北部礎検出状況(西から)



(7) 道路露頭検出土坑状土層堆積状況(北東から)



(8) 2号墳北部遺物出土状況(西から)



第2次調査出土遺物写真①



第2次調査出土遺物写真②



第2次調査出土遺物写真③



第2次調査出土遺物写真④



第2次調査出土遺物写真⑤



(1) 益生田古墳群 76号墳(西から)



(2) 鳥越古墳群 1号墳(から)

報告書抄録

|        |   |  |  |
|--------|---|--|--|
| ふりがな   | さんのうこふんぐん 一だい1・2じはつくつちようさほうこくー  |  |  |
| 書名     | 山王古墳群 一第1・2次発掘調査報告一   |  |  |
| シリーズ名  | 久留米市文化財調査報告書  |  |  |
| シリーズ番号 | 第440集   |  |  |
| 編著者名   | 小川原 励   |  |  |
| 編集機関   | 久留米市 市民文化部 文化財保護課   |  |  |
| 所在地    | 〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714<br>Email: bunkazai@city.kurume.lg.jp |  |  |
| 発行年月日  | 2023(令和5)年3月31日   |  |  |

| ふりがな<br>所収遺跡名   | ふりがな<br>所在地  | コード       |      | 北緯                | 東経                       | 調査期間                      | 調査面積                     | 調査原因   |
|---|--|-----------|------|-------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|--------|
|   |  | 市町村       | 遺跡番号 |                   |                          |                           |                          |        |
| さんのうこふんぐん<br>山王古墳群<br>たいしちよう<br>第1次調査   | ふくおかけんくさぬし<br>福岡県久留米市<br><br>たぬしまるまちいしけき<br>田主丸町石垣 | 40203     | —    | 33°<br>15′<br>44″ | 130°<br>27′<br>41″       | 20200601<br>～<br>20220204 | 150 m <sup>2</sup>       | 記録保存調査 |
| 所収遺跡名   | 種別   | 時代        | 主な遺構 |                   | 主な遺物                     |                           | 特記事項                     |        |
| 山王古墳群<br>第1次調査  | 古墳   | 古墳        | 古墳   | 2基                | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、金属器、石器 |                           | 6世紀後半前後の方墳1基と小石室1基を確認した。 |        |
| 要 約   |  |           |      |                   |                          |                           |                          |        |
| <p>方墳1基、小石室を1基検出した。方墳は複式構造であるが、後世の採石や盗掘によって、羨道や前室などが失われ、石室の下位のみ残存する。前庭はハの字状に広がり、北側には石列で区画された突出部を有す。また、墳丘の外周には列石が巡る。</p> |  |           |      |                   |                          |                           |                          |        |
| 土木工事の届出日  |  | 令和元年8月23日 |      |                   | 遺物の発見通知日                 |                           | 令和3年2月9日<br>(2文財3039号)   |        |

| ふりがな<br>所収遺跡名  | ふりがな<br>所在地                                    | コード   |      | 北緯                | 東経                          | 調査期間                      | 調査面積               | 調査原因   |
|--|--|-------|------|-------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------|--------|
|  |  | 市町村   | 遺跡番号 |                   |                             |                           |                    |        |
| やまのうへふんごん<br>山王古墳群<br>第2次調査  | ふくおかけんくろめし<br>福岡県久留米市<br>たのしまるまふしひがき<br>田主丸町石垣 | 40203 | —    | 33°<br>19′<br>17″ | 130°<br>27′<br>41″          | 20210415<br>～<br>20210215 | 309 m <sup>2</sup> | 記録保存調査 |
| 所収遺跡名  | 種別   | 時代    | 主な遺構 |                   | 主な遺物                        |                           | 特記事項               |        |
| 山王古墳群<br>第2次調査   | 古墳   | 古墳    | 古墳   | 1基                | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、金属器、石器、磁器 |                           | 6世紀後半前後の方墳1基を調査した。 |        |
| 要 約  |  |       |      |                   |                             |                           |                    |        |
| <p>羨道の天井が欠損し、積土、積石の一部は崩落していたが、ほぼ完形である。複室構造の横穴式石室を有する。令和2年度に発掘調査を実施した1号墳と同様に、前庭部の北西部には長方形の突出部があり、その周辺で多くの遺物片が出土した。羨道端部から台形状に積石が古墳を巡っており、その外部では南から東へかけて地山を大きく整形していることがうかがえた。土層の堆積状況から方墳と考えられる。</p> |  |       |      |                   |                             |                           |                    |        |
| 土木工事の届出日   | 令和元年8月23日                                      |       |      | 遺物の発見通知日          |                             | 令和4年2月21日<br>(3文財第3039号)  |                    |        |

山王古墳群  
—第1・2次発掘調査—  
久留米市文化財調査報告書 第440集  
令和5年3月31日  
発行 久留米市教育委員会  
編集 久留米市市民文化部文化財保護課  
印刷 ダイワインクス株式会社  
久留米市東合川6-2-5